

2 0 1 3 年度（平成 2 5 年度）

事 業 計 画 書



学校法人 和泉短期大学

2 0 1 3.3.2 2

目 次

	ページ
1. 法 人	5
2. 短 期 大 学	8
3. 専 攻 科	18
4. キリスト教活動	20
5. 研 究 活 動	22
6. 委 員 会 活 動	33
7. 広 報 活 動	39
8. 施設・設備経費	42
9. 財政の概要	45

学校法人 和泉短期大学 沿革

- 1952年8月 J.C.クラーク博士が敗戦直後の日本の困窮児を救済するため、G.E. バット博士、V.J.ミルス博士と共に社会福祉法人基督教児童福祉会を設立し、全国の養護施設（現・児童養護施設）への助成を開始。
- 1956年5月 当時、福祉施設従事者の資質の向上が社会福祉界の重要な課題であったため、基督教児童福祉会は、本学の前身である福祉従事者の現任訓練機関バット博士記念養成所を東京世田谷区に開設。
- 1960年5月 現任訓練の成果は、施設保母（現・保育士）養成機関を常設してほしいという強い要望となり、わが国はじめての入所型の児童福祉施設保母（現・保育士）養成機関・玉川保母専門学院を設置。
- 1965年4月 児童福祉事業の進展に伴い、さらに充実した高度な専門教育機関が求められるようになり、玉川保母専門学院はCCF の多大な援助のもと、学校法人クラーク学園和泉短期大学児童福祉科に改組転換。
- 1966年4月 児童福祉科に幼稚園教諭養成課程を設置。
- 1976年8月 神奈川県相模原市に校舎に全学移転。
- 1985年4月 全国に先駆けて老人福祉ワーカーの養成機関・クラーク学園和泉老人福祉専門学校（和泉福祉専門学校）を和泉短期大学に近接して開校。
- 1988年4月 和泉老人福祉専門学校（和泉福祉専門学校）が介護福祉士養成機関として認定。
- 和泉短期大学児童福祉科に社会福祉士国家試験受験資格を取得するための教育課程を新設。（2003 年度より休止）
- 2000年4月 児童福祉科から児童福祉学科へ名称を変更。
- 2004年11月 50 周年記念事業として体育館を竣工。
- 2006年5月 クラーク学園創立50 周年。子育てサロン『はっぴい』を開設。
- 2008年3月 （財）短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受診。
- 2009年7月 文部科学省・学生支援推進プログラムに選定(1)。
- 2010年3月 和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を閉校。
- 4月 和泉短期大学に専攻科介護福祉専攻を設置。
- 9月 文部科学省・大学生の就業力育成支援事業に選定(2)。
- 2011年4月 キャリアデザインセンター（CDC）開設
- 2013年1月 文部科学省・産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業に選定(3)。
- 2013年4月 学校法人名を「クラーク学園」から「和泉短期大学」に変更。

和泉短期大学

学 科 名	入学定員	収容定員
児 童 福 祉 学 科 (2年制)	250名	500名
専攻科介護福祉専攻 (1年制)	20名	20名

和泉短期大学の歴史

学校法人和泉短期大学の起源は、C C F (Christian Children's Fund, Inc.) 運動による。それは、創始者カルビット・クラーク博士の戦災で苦しむ子どものために、献身するビジョンが、他の人に伝わり、それが連鎖的に次々にひろがり、国境を越え、世界の子どもたちの幸福のために働く愛の共同体として活動が続けている。

本法人の起点は、1956年（昭和31年）4月、米国C C Fによって設立された社会福祉法人基督教児童福祉会バット博士記念養成所にさかのぼる。第二次世界大戦後、わが国の困窮している人々を救済したララ物資配分責任者バット博士によって、ミルス博士を通して、わが国へのC C F援助の懇請によって実現した。児童福祉施設の子どもへの経済的援助のみでなく、そこに働く職員の資質向上こそ根本的急務であるというC C Fおよび援助施設よりの要請によって、実験的モデル施設と訓練講習会の開催のためにバット博士記念センターが開設された。子どもにとって楽しい明るいホームと人材育成の福祉事業が車の両輪のようなものである。

本法人は、急激に変化する社会において、ある時は先駆的に、また社会からの求めに応じ、バット博士記念養成所から玉川保育専門学院、和泉短期大学、和泉福祉専門学校を生み育ててきた。本法人の創立と共に、ヨハネ福音書より校名を「和泉」と命名し、「願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを」との標語を掲げ、スクールモットー「愛と奉仕」のもとで教育事業が実施された。



和泉短期大学のロード・マップ

Make a fresh start ～新たなる出発～

— 愛と奉仕 —
love and service

- 隣人を自分のように愛しなさい — マタイによる福音書 22章 39節
— わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人が内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。 — ヨハネによる福音書 4章 14節

ミッションステートメント(要約)

和泉短期大学は、キリスト教の精神に基づき、子どもから高齢者に至るすべてのライフステージに対応する福祉と教育を担う「愛を実践する専門家」を養成することを使命とし、教育はすべての人間の個人の尊厳を尊重し、ライフステージに適合する福祉の「ユニバーサルサービス」の達成をめざし、教え合い学び合う「開かれた教育共同体」の形成を遂行していきます。

教育実践の心構え

MISSION

使命を確認し、
責任を自覚する。

PASSION

業務を、熱意と誠実を
もって行動する。

ACTION

更なる進展、向上に
向けて行動する。

教育目標

和泉短期大学は、建学の精神「愛と奉仕」に基づき、二年間の教育を通して、次のような資質を有する人物を育成することを目標としています

- ① キリストの愛の教えを基盤とし、保育・福祉専門職として人権を尊重する人
- ② さまざまな世代の人々とコミュニケーションがとれる人
- ③ 世界の出来事に目を向け、自ら積極的に考え、学び、行動する人

自らの将来の姿として、上記の考えに賛同し、積極的に学びに励もうとする意思のある
人々を私たちは歓迎します。

和泉短期大学 アドミッション・ポリシー

【高等学校までの学習・体験において推奨されること：児童福祉学科】

高等学校在学中になされる幅広い学びと豊かな経験は、福祉・保育を学ぶための基盤となります。下記は、とくに高等学校在学中に取り組むことを推奨する事項です。

1. 福祉・保育関係に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
 2. 福祉・保育現場等でのボランティアを積極的に経験する。
 3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得する。
- （これらは、児童福祉学科への出願・入学の必須条件ではありません。）

【専攻科入学前までの学習・体験において推奨されること：専攻科介護福祉専攻】

専攻科介護福祉専攻においては、保育士養成校での学びを基盤に、主に高齢者や障がい者を対象とする介護を学びます。下記は、とくに専攻科入学前に取り組むことを推奨する事項です。

1. 社会福祉に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
 2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験する。
 3. 対人援助の基礎となる自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）を修得する。
- （これらは、専攻科への出願・入学の必須条件ではありません。）

2013 年度 学校法人和泉短期大学の基本構想

建学の精神 【愛と奉仕】

建学の精神の
堅持とその具体化

単年度の経営の
健全化

教育と研究の
一層の充実

積極的に外部評価を
受けて一層の
経営改善

大学を取り巻く環境

18 才人口の減少 受験生対策	大学進学率		経営赤字 2011 年度	短大進学者 の 減 少	大学の中退者・進路変更の増加
	大 学	短 大			
1990 年 201 万人 2013 年 123 万人 (前年比 3 万人増)	1990 年 24.6% 2013 年 50.8% 605 校	11.7% 5.4% 350 校	大学 42.2% 250 校 短大 54.7% 193 校	専門学校への 進学者増加 22.2%	8人に1人 質の低下(経済的理由、学習意欲 の喪失、不本意入学、人間関係)

今年度の目標と課題

1. ブランド戦略 —「実力養成型の大学」を目指す— ① 地元密着の大学 高等学校の一層の連係強化 ② 入学前教育の充実 ③ 近隣高等学校長、進路指導教員との教育研究会 の継続開催	5. 寄付文化の養成 と補助金の獲得 ① 法人の役員、評議員、教職員、ステークホルダー、 外部等に対して「教育環境充実資金」への寄付金の協 力要請 ② 国庫補助金、競争的資金の獲得
2. 本当に強い大学の維持 週刊東洋経済(2012 年 10 月 27 日発行) 「本当に強い大学」特集号に掲載 ① 介護・福祉系資格に強い大学 全国第 9 位 ② 経済余裕度 全国第 30 位	6. 施設・設備の充実 ① 206 教室の改修 ML特別教室、会議室の設置 ② 5 号館売却(専攻科実習室の移転) 2 号館地下に介護実習室、入浴実習室の設置 ③ 校地の集約(周辺土地の取得計画)
3. 教職協働 教員と職員が車の両輪となり、内外の全ての教育と 研究の業に当たっていることを一層の強みにする	7. 学校法人名の変更 クラーク学園から「和泉短期大学」に変更 2013 年 4 月 1 日付 文部科学大臣 2012 年 12 月 10 日付 認可
4. 外部資金の導入 文部科学省選定の補助金事業(4 回目の選定) ① 2012 年度大学改革推進等補助金である 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制事 業」に選定 ② 校地(グラウンド)、教室、体育館等の空き時間の外部 への貸し出し	8. 教育の質の充実 ① 質の高い保育者の養成校として、教育の質の 充実を図る ② 専攻科の課題と充実を緊急課題として取り組む

1. 法 人

2013年度和泉短期大学、同専攻科の事業計画

理事長 深 町 正 信

今年度は昨年度と同様に短大のブランド戦略として、神奈川県相模原市のある教育機関の一つとして「地元密着の大学」として、地元的高等学校との連携を一層深めていきたいと願う。そして、現在大きな課題の一つとなっている高校生の学力の低下を短期大学に入学する前に、少しでも正しい学びの動機づけをなし、現在行われている「入学前教育」を充実させることに努めたい。更に、第5回目を迎える近隣的高等学校の校長、進学指導の先生方との意見交換の場である「教育研究会」を継続していきたい。その結果、和泉短期大学が将来、子どものための仕事や幼稚園、保育園、社会福祉施設に働く資格を得る者のための「実力養成型の大学」として多くの受験生に認知されるように具体的に努力してゆきたい。

2012年10月27日に出版された週刊『東洋経済』の「本当に強い大学2012年」の特集記事によれば、和泉短期大学は介護、福祉系資格に強い大学、学部の全国第9位に挙げられている。更に、現在、募集停止や私学助成が減額されている大学が増加し、大学運営が厳しくなっているとき、全国で経済余裕度トップ30位に挙げられている。これは収入と支出と資産の上手なマネジメントが現在のところ上手になされているということを意味している。今後は、本当の置かれている状況の変化にすぐに対応出来るように、支出の変動費化に一層真剣に努めて、学生の教育に資する支出を重点的に投資して行きたい。その結果、一人でも多くの良い学生が本学を目指し、入学し、より良い教育環境が作られていくことを期待したいと願っている。

現在の和泉短期大学の良さは、すべての教員と職員が正に車の車輪となり、内外のすべての教育と研究の業にあたっていることと確信している。

幸い、平成24年度の文部科学省高等教育局の募集した「産業界のニーズに対応した教育改善、充実体制整備事業」に、本学は電気通信大学、宇都宮大学、横浜国立大学、亜細亜大学、北里大学、創価大学、東京経済大学、日本社会福祉事業大学、武蔵野大学、神奈川工科大学、昭和音楽大学、山梨英和大学、昭和音楽短期大学部とのグループ、連携の中で、和泉短期大学も選定されました。その取り組む課題は「関東山梨地域大学連携による産業界のニーズに対応した教育改善」であります。この研究成果に大いに期待したいと思う。

私立大学の収入の多様化を考えると、特に、寄付金を少しでも獲得すること、国公立大学間の公的助成と事業、寄付減免税について、イコール・フィテングの考え方を是非実現する必要があることを強く思う。このために、本学においても一層、学内外に於ける様々な寄付文化を養成する必要がある

あることを特に強く感じている。

和泉短期大学の校地、校舎、付属のグラウンドは出来るだけ外部に貸出し、少しでも収入を得るために一層努めていきたいと考えている。

今年度の事業計画としては、206号教室の改修を8月中に実施し、教授会を含む諸会議を行う部屋をよりよく整備し、外来者との対応のために応接室を設置する予定である。音楽教室の充実のためには、新たに、EML 特別教室（電子オルガン26台・音響設備26台）を2013年の9月までに設置し、10月から使用を可能にする予定である。このために、現在、短期大学の関係者からの応分の寄付金を募集しているが、その寄付の額の大小でなく、一人でも多くの方々からの協力を心から願うものである。

これまでは創立以来ずっと、「学校法人クラーク学園和泉短期大学」が本学の正式な公称であったが、今後は創立者のクラーク博士の精神を大事にしつつ、「学校法人和泉短期大学」と称することが正式に受理され、文部科学省の認可を得たことをここに記しておきたい。

長い間の懸案であった第5号館（旧和泉福祉専門学校）の建物と土地は現在、有力な買い手がでてきているので、両者の思惑が合致すれば、正式に売買契約が成立するものと思われる。これを資金の一部として、現在の和泉短期大学の校地の周辺の土地を買い入れて、和泉短期大学の校地を出来るだけ現地に集約したいと考えている。

顧みて、平成4年には、4年制大学は523校であったが、平成14年には686校、そして、平成24年になると783校になった。このような状況の中で、今後は一層大学に於ける教育の質が問われることになると思われるが、それを真摯に受け止め、本学としても大事な課題として取り組んでいきたいと願っている。今年度は特に、和泉短期大学専攻科の課題と充実を緊急の課題として取り組んでいきたいと願っている。

結びに、現代の日本の教育現場を見る時、宗教心が全く欠如しているように思われる。すなわち、見えないものを畏敬する心、他人を思いやる優しい心、また、道徳心が失われていることをひしひしと感じる。オックスフォード大学の教育目標は「悪を悪として見抜ける目をもつ人を育てる」と書かれていた。幸い、和泉短期大学は建学の精神としてキリスト教信仰に基づく「愛と奉仕」の人間形成をスクール・モットーとして掲げている。したがって、和泉短期大学は本年度も1、建学の精神の堅持とその具体化、2、単年度の経営の健全化、3、教育と研究の一層の充実、4、積極的に外部評価を受けて一層の経営改善を計るを基本としているが、この基本に立って、今年度も変わることなく学校法人のより良い運営、経営に努めていきたいと願っている。

法人事業計画

○理 事 会

2013 年	5 月	25 日 (土)	理事会 (決算)	於：和泉短期大学
2013 年	10 月	25 日 (金)	理事会 (予算骨子)	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野
2014 年	3 月	20 日 (木)	理事会 (予算)	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野

○評議員会

2013 年	5 月	25 日 (土)	評議員会 (決算)	於：和泉短期大学
2013 年	10 月	25 日 (金)	評議員会 (予算骨子)	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野
2014 年	3 月	20 日 (木)	評議員会 (予算)	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野

○学内運営協議会

➤ 出席者：理事長、学長、事務局長、教務部長、学生部長、庶務ユニットリーダー

2013 年	4 月	10 日 (水)	4 月	17 日 (水)	4 月	24 日 (水)	5 月	1 日 (水)
	5 月	8 日 (水)	5 月	15 日 (水)	5 月	22 日 (水)	5 月	29 日 (水)
	6 月	5 日 (水)	6 月	12 日 (水)	6 月	19 日 (水)	6 月	26 日 (水)
	7 月	3 日 (水)	7 月	10 日 (水)	7 月	17 日 (水)	7 月	24 日 (水)
	9 月	4 日 (水)	9 月	11 日 (水)	9 月	18 日 (水)	9 月	25 日 (水)
	10 月	2 日 (水)	10 月	9 日 (水)	10 月	16 日 (水)	10 月	23 日 (水)
	10 月	30 日 (水)	11 月	6 日 (水)	11 月	13 日 (水)	11 月	20 日 (水)
	11 月	27 日 (水)	12 月	4 日 (水)	12 月	11 日 (水)	12 月	18 日 (水)
2014 年	1 月	8 日 (水)	1 月	15 日 (水)	1 月	22 日 (水)	1 月	29 日 (水)
	2 月	5 日 (水)	2 月	12 日 (水)	2 月	19 日 (水)	2 月	26 日 (水)
	3 月	5 日 (水)	3 月	12 日 (水)				

○学園行事

2013 年	4 月	8 日 (月)	イースター特別礼拝
	4 月	22 日 (月)	創立記念礼拝
	11 月	11 日 (月)	召天者記念礼拝
	12 月	2 日 (月)	クリスマスツリー点火祭
	12 月	7 日 (土)	クリスマス・コンサート

2. 和泉短期大学

2013年度 事業計画

学長 伊 藤 忠 彦

本学は2013年度も、建学の精神を基とし、神より託されたこの教育事業を、神の祝福を願い、祈りつつ取り組み、実施して行きたい。

今年も、大学を取り巻く社会状況の変化、少子化に伴う、短期大学の学生定員充足率の低下と財政の悪化（短大の55%）、また、社会の急速な変化による将来予測不能による目標設定の困難と混迷状況、また経済の悪化等による、中途退学者の増加が見込まれる。

本学は、これらを状況を見据え、教学の充実、並びに学生支援、宗教活動の充実、強化を一層進めて、神より託された本学の使命を果たして行く所存である。

1) 教職員体制

専任教員21名<専攻科3名>（前年比－1）学長、教授6名（±0）、特任教授1名（－1）、准教授10名（＋1）、専任講師1名（－1）、助教3名（±0）、非常勤講師39名（＋3）、事務職員30名（±0）（契約1名、嘱託1名、兼任13名）の体制で事業が進められる予定である。

2) 2013年度学生数

短期大学：2年生271名（－10）1年生294名（－1）専攻科19名（－2）で新しい年度を始めることができる見通しである。

3) 学生生活の向上にむけての支援

i) 入学前教育の充実

本年度も、本学への入学を許可された者が、入学を前に、和泉短期大学の沿革を学ぶと共の、ピアノレッスン、コミュニケーションスキル等を学ぶ、入学前教育を実施し、新入生が、より高い動機づけ（モチベーション）をもって、本学の学生生活に入れるよう、昨年12月より、つき一度4回にわたって実施してきた。

ii) 保護者との連携

本年度も、年2回、学期終了後、学生と保護者に成績一覧表を出し、学生の生活状況、授業出席、各教科の成績、成績の順位等の学業状況を開示し、保護者の理解のもとに、学生が出来る限り学業に専心できるよう協力いただくつもりである。

iii) 退学、休学、留年、除籍学生の増加状況の改善への取り組み

増加しつつある学生の退学、休学等の改善に向けて、要因の調査と分析、高等学校との情報交換、グループアドバイザーを中心とした教職員のサポート体制の強化、現行の入試方法の点検、更なる奨学金の制度の充実等を図って行きたい。

iv) FD&SD（ファカルティ&スタッフ）の強化

全教職員は、学生の評価を受け、また教員の教育力・学生指導力の向上のための専門家による講習を受講し、それぞれの専門分野での学びに努め、教育力、学生指導のあり方を学び、真摯で、ホスピタリティーをもった学生支援に努めたい。

4) 自己点検評価の実施

短期大学の質の保証と向上を目指し、実施してきた自己点検・評価を実施し、更に、2007年、短期大学基準協会による、第三者点検・評価を受け、短期大学としての質の保証を表す認証評価を得ることができた。しかし、全短期大学を対象に実施された第三者点検・評価は一巡し、新評価基準をもって、第二クール（第二期目）にはいり、本学は2014年の第三者評価に向けて、教育、研究・学生支援、財政等の改善に努めつつ、毎年、自己点検評価を行い、時代の変遷に耐えうる大学として、社会に貢献できる大学であり続けたいと願っている。

5) 文科省補助金事業「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の展開

2010年本学が応募し採択された、文科省補助金事業「就業力向上推進プログラム」(5年間)は、行政刷新会議の仕分けにより3年を残して2011年末をもって終えることになった。しかし、2012年、新に文科省公募プログラム「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の展開」に、関東山梨地域の14大学(短大2)との連携事業プログラムとして応募し、採択され、既にこの助成金事業の展開を開始している。本学は、保育者の養成校として、幼稚園・保育園・児童養護施設等の保育業界との連携を強化し、連絡協議会、研究会を開催し、学生の現場実習にあたっての情報交換・お願い・意見聴取にとどまらず、この事業の一環として、いっそう、本学の保育者養成教育に保育業界のニーズを聴取し、反映させ、改善整備して行く予定である。

6) 保育者養成校として本学が直面している諸問題への取り組み

乳幼児を取り巻く社会的変化に伴い、幼保一体化に向けた議論がなされ、2006年に根拠法が施行され、認定こども園(幼保連携型・幼稚園型・保育所型・地方裁量型)として都道府県知事が条例に基づき認定する、幼保一体型の施設がスタートした。

しかし、民主党政権において、2012年、新たな子育て政策である「子ども、子育て新システム」が提案され、2015年度スタートをめどに「総合こども園」と呼ばれる幼稚園と保育所の機能を併せもつ施設の発足が示されたが、その後、政権交代があり、現在どのようになるのかは不透明である。

いずれにしても、本学は、保育者養成校としては、この動向に注意を払い、迅速に、適切な対応がはかれる態勢を保持して行くつもりである。

7) 学生及び卒業生の保育就業力向上への本学の取り組み

i) 文科省の補助金事業として、2011年発足した、保育就業力育成センター(キャリア・デザイン・センター)は、行政刷新会議の仕分けで、補助金の中途打ち切りにより、職員の削減という規模縮小を迫られたが、現在は、2012年に採択された補助金事業の展開のツールの一環としてセンターを用いることが出来き、規模も回復し、保育就業力向上の取り組みにおいても、大きな役割を果しつつある。

ii) 第4回 夏期リカレント講座開催の実施

2013年度は、保育現場で働く卒業生等に向けて、7月30日(火)「講演とワークショップ」で開催予定である。神奈川県立相模原中央支援学校の教員による「特別な支援を必要とする子どもへの関わり」(仮題)のほか本学の教員4名の発題とワークショップで実施予定である。

8) 一層の入試・広報の改善と高等学校との連携の強化

2013年度も、昨年度に続き、2012年度の入試実施の成果を検証し、広報活動、並びに、高等学校との連携の一層の強化(福祉・保育・幼児教育を目指す高校生への働きかけ等)に努めて行きたい。

9) 就職・進学、並びに進路指導の一層の充実

2013年度も、昨年度に続き2年生を対象に、進路支援講座を、6月より9月まで15回、テーマ、「就職までのスケジュール」に始まり「面接試験対策（応用・実践編）」「求められる人物像と活動の流れ」「卒業生を招いての就職懇談会」等で学び、自信をもって就職・進学先の開拓に臨めるよう指導して行きたい。

10) 教職員間の更なる協力の必要性

本学の教育の本分を十分に発揮するため、また直面している種々の危機回避、克服のために、教職員間の信頼と教職員相互の協力に努力して行きたい。

11) 和泉短期大学父母会

2013年度も、会報発行、奨学金による学生支援、和泉祭参加、保護者関係の葬儀での献花、卒業式のガウン貸し出しと保管・父母会総会（入学式時）の父母懇親会開催、役員会と、次年度も2013年度生の父母役員を加え、学校へのご協力をいただける見込みである。（担当部署：学生支援ユニット）

12) 同窓会いずみ

2013年度も、総会&茶話会、和泉祭—いずみのひろっぱ—開催、会報「いずみ」発行、在学生への奨学金支援、本学のホームページの「同窓会からのお知らせ」「掲示板」の運用、また、本学と同窓生、また同窓生間の交流や情報発信の働きを担っていただける見込みである。（事務所：2号館1階）

13) 後援会

2013年度も、「和泉短期大学の発展に寄与し、父母会活動を支援し、また相互修養と交流を図ることを目的とする」の下に、ほぼ同じ体制で、ご支援いただける見込みとである。「後援会便り」の発行、「いずみ祭」参加、役員の牧師先生方のチャペルでのご奉仕等、ご支援いただく予定である。（担当部署：学生支援ユニット）

(1) 学事予定

2013 年	3 月	29 日 (金)	2 年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング
	4 月	1 日 (月)	入学式、全教員打合せ会
		2 日 (火)	1 年、専攻科前期オリエンテーション① 2 年、専攻科健康診断、教科書販売
		3 日 (水)	1 年、2 年新入生歓迎会 1 年、専攻科新入生研修会 専攻科前期オリエンテーション②
		4 日 (木)	1 年前期オリエンテーション② 2 年、専攻科前期授業開始
		5 日 (金)	1 年健康診断、教科書販売
		8 日 (月)	1 年前期授業開始、グループミーティング イースター特別礼拝
		22 日 (月)	創立記念礼拝
		24 日 (水)	実習連絡会 (幼稚園)
5 月		8 日 (水)	高校教員対象進学説明会①
		13 日 (月)	2 年現場実習 (幼稚園・児童福祉施設) 〈6 月 1 日 (土) まで〉 避難・防災訓練 高校教員対象進学説明会②
6 月		3 日 (月)	市内高校保育・福祉担当教員研究会
		10 日 (月)	専攻科介護実習 I 〈6 月 17 日 (月) まで〉
		12 日 (水)	実習連絡会 (児童福祉施設)
		22 日 (土)	介護技術講習会①
		23 日 (日)	介護技術講習会②
		24 日 (月)	2 年現場実習 (幼稚園・児童福祉施設) 〈7 月 13 日 (土) まで〉
		29 日 (土)	介護技術講習会③
		30 日 (日)	介護技術講習会④
7 月		10 日 (水)	かながわ高齢者福祉研究大会
		27 日 (土)	1 年夏期休業開始 〈9 月 29 日 (日) まで〉 専攻科定期試験①
		30 日 (火)	2 年夏期休業開始 〈9 月 1 日 (日) まで〉 専攻科定期試験② リカレント講座 おもちゃインストラクター養成講座 1 回目 〈2 回目 31 日 (水)〉
		31 日 (水)	専攻科夏期休業開始 〈9 月 1 日 (日) まで〉
8 月		19 日 (月)	1 年、専攻科成績報告締切日
		30 日 (金)	専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、 再試験発表、教科書販売

9月	2日(月)	1年一般教養対策講座、2年前期授業再開、専攻科後期授業開始
	9日(月)	1年ボランティアウィーク〈9月17日(火)まで〉 専攻科前期再試験日〈10(火)まで〉
	10日(火)	専攻科実習連絡会
	14日(土)	介護福祉士筆記試験対策講座①②
	17日(火)	2年現場実習(保育所・児童福祉施設)〈10月3日(木)まで〉
	18日(水)	1年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、 再試験発表、教科書販売
	25日(水)	1年前期再試験日〈26日(木)まで〉 2年成績報告締切日
	30日(月)	1年後期授業開始
10月	4日(金)	2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、 再試験発表、教科書販売
	7日(月)	2年後期授業開始
	19日(土)	専攻科入試i日程、介護福祉士筆記試験対策講座③④
	25日(金)	学生祭週間〈28日(月)まで〉
	26日(土)	いずみ祭、個別相談会⑦、⑧〈27日(日)まで〉
11月	2日(土)	入学者選考日[指定校、卒業生・在学生家族、キリスト教推薦、iA0 (A日程)]
	5日(火)	専攻科介護実習Ⅱ〈12月8日(土)まで〉
	9日(土)	介護福祉士筆記試験対策講座⑤⑥⑦
	11日(月)	召天者記念礼拝
	16日(土)	公募・専門高校推薦、社会人入試 図書館主催行事
	20日(水)	専攻科帰校日
	30日(土)	介護福祉士筆記試験対策講座⑧⑨
12月	2日(月)	クリスマスツリー点火祭
	7日(土)	専攻科B日程入試
	14日(土)	介護福祉士筆記試験対策講座⑩
	16日(月)	クリスマス礼拝
	21日(土)	冬期休業開始〈2013年1月5日(日)まで〉
2014年	1月	
	6日(月)	後期授業再開
	22日(水)	実習連絡会(保育所)
2月	3日(月)	1年後期授業終了
	4日(火)	2年追・再実習追加分(幼稚園)〈6日(木)まで〉 1年、2年後期定期試験〈5日(水)まで〉
	5日(水)	一般入試、C日程入試 専攻科後期授業終了
	6日(木)	専攻科後期定期試験〈7日(金)まで〉

2月	7日(金)	2年後期授業終了
	12日(水)	1年保育実習(保育所)〈2月27日(木)まで〉 2年追再実習〈2月27日(木)まで〉 専攻科卒業生共通試験
	13日(木)	専攻科試験講習会〈14日(金)まで〉
	14日(金)	2年、専攻科成績報告書締切日
	17日(月)	専攻科専攻科再試験
	19日(水)	1年成績報告書締切日 2年、専攻科後期再試験発表
	26日(水)	2年、専攻科後期再試験
	28日(金)	1年後期再試験発表 2年追再実習者再試験
3月	3日(月)	専攻科D日程入試 おもちゃインストラクター養成講座〈4日(火)まで〉
	6日(木)	1年後期再試験〈7日(金)まで〉
	13日(木)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科終了感謝礼拝・終了証書授与式予行練習
	14日(金)	2年卒業証書・学位記授与式 専攻科終了証書授与式
	31日(月)	1年前期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング

(2) 実習

2013年	5月	13日(月)	～6月1日(土)	2年幼稚園・児童福祉施設
	6月	10日(月)	～6月17日(月)	専攻科介護実習Ⅰ
	6月	24日(月)	～7月13日(土)	2年幼稚園・児童福祉施設
	9月	17日(火)	～10月3日(木)	2年保育所・児童福祉施設
	11月	5日(火)	～12月7日(土)	専攻科介護実習Ⅱ
2014年	2月	4日(火)	～2月6日(木)	2年追再実習追加分(幼稚園)
		12日(水)	～2月27日(木)	1年保育所、2年追再実習

(3) 2014 年度 児童福祉学科入試日程

2014 年度 児童福祉学科 入試日程

IAO 入試Ⅰ期

2013 年 5 月 18 日(土)～6 月 29 日(土)16 時 43 日間 定員充足時点で締め切り	面 談 1 回 目 申 込 期 間
2013 年 7 月 6 日(土) 午前	面 談 A 1 回 目
2013 年 7 月 20 日(土) 午前	面 談 B 1 回 目
2013 年 5 月 18 日(土)～7 月 13 日(土)16 時 57 日間 定員充足時点で締め切り	面 談 2 回 目 申 込 期 間
2013 年 7 月 20 日(土) 午前	面 談 A 2 回 目
2013 年 7 月 27 日(土) 午前	面 談 B 2 回 目
2013 年 7 月 29 日(月) 時間未定	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2013 年 7 月 30 日(火)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2013 年 7 月 31 日(水)～8 月 23 日(金) 24 日間	出 願 手 続 期 間
2013 年 8 月 30 日(金)	合 格 通 知 発 送 日
2013 年 9 月 2 日(月)～9 月 10 日(火) 9 日間	入 学 手 続 期 間
2013 年 9 月 2 日(月) 時間未定	合 否 承 認 教 授 会

IAO 入試Ⅱ期

2013 年 6 月 16 日(日)～7 月 24 日(水)16 時 39 日間 定員充足時点で締め切り	面 談 1 回 目 申 込 期 間
2013 年 7 月 31 日(水) 午前	面 談 A 1 回 目
2013 年 8 月 19 日(月) 午前	面 談 B 1 回 目
2013 年 6 月 16 日(日)～8 月 12 日(月)16 時 58 日間 定員充足時点で締め切り	面 談 2 回 目 申 込 期 間
2013 年 8 月 19 日(月) 午前	面 談 A 2 回 目
2013 年 8 月 28 日(水) 午前	面 談 B 2 回 目
2013 年 9 月 2 日(月) 時間未定	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2013 年 9 月 3 日(火)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2013 年 9 月 4 日(水)～9 月 11 日(水) 8 日間	出 願 手 続 期 間
2013 年 9 月 12 日(木)	合 格 通 知 発 送 日
2013 年 9 月 13 日(金)～9 月 25 日(水) 13 日間	入 学 手 続 期 間
2013 年 9 月 25 日(水) 14 時 50 分	合 否 承 認 教 授 会

IAO入試Ⅲ期

2013年7月13日(土)～9月21日(土)16時 71日間 定員充足時点で締め切り	面談1回目申込期間
2013年9月28日(土) 午前	面談A1回目
2013年10月5日(土) 午前	面談B1回目
2013年7月13日(土)～9月28日(土)16時 78日間 定員充足時点で締め切り	面談2回目申込期間
2013年10月5日(土) 午前	面談A2回目
2013年10月12日(土) 午前	面談B2回目
2013年10月14日(月) 時間未定	出願許可判定教授会
2013年10月15日(火)	出願許可通知発送日
2013年10月16日(水)～10月23日(水) 8日間	出願手続期間
2013年10月24日(木)	合格通知発送日
2013年10月25日(金)～11月5日(火) 12日間	入学手続期間
2013年10月30日(水) 14時50分	可否承認教授会

IAO入試Ⅳ期(1月)

実施するか否かを2013年12月2日(月)10時にホームページで発表する。

2014年1月6日(月)～1月18日(土)16時 13日間 定員充足時点で締め切り	面談申込期間
2014年1月25日(土) 午前	面談A
2014年2月1日(土) 午前	面談B
2014年2月3日(月) 時間未定	出願許可判定教授会
2014年2月4日(火)	出願許可通知発送日
2014年2月5日(水)～2月12日(水) 8日間	出願手続期間
2014年2月13日(木)	合格通知発送日
2014年2月14日(金)～2月21日(金) 8日間	入学手続期間
2014年2月26日(水) 時間未定	可否承認教授会

iA0入試Ⅳ期(2月)

実施するか否かを2014年1月31日(金)10時にホームページで発表する。

2014年2月3日(月)～2月10日(月)16時 8日間 定員充足時点で締め切り	面 談 申 込 期 間
2014年2月17日(月) 午前	面 談 A
2014年2月26日(水) 午前	面 談 B
2014年2月26日(水) 時間未定	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2014年2月27日(木)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2014年2月28日(金)～3月10日(月) 11日間	出 願 手 続 期 間
2014年3月11日(火)	合 格 通 知 発 送 日
2014年3月12日(水)～3月20日(木) 9日間	入 学 手 続 期 間
2014年3月5日(水) 時間未定	合 否 承 認 教 授 会

iA0入試Ⅳ期(3月)

実施するか否かを2014年2月10日(月)10時にホームページで発表する。

2014年2月11日(火)～2月19日(水)16時 9日間 定員充足時点で締め切り	面 談 申 込 期 間
2014年2月26日(水) 午前	面 談 A
2014年3月3日(月) 午前	面 談 B
2014年3月5日(水) 時間未定	出 願 許 可 判 定 教 授 会
2014年3月6日(木)	出 願 許 可 通 知 発 送 日
2014年3月7日(金)～3月13日(木) 7日間	出 願 手 続 期 間
2014年3月14日(金)	合 格 通 知 発 送 日
2014年3月17日(月)～3月20日(木) 4日間	入 学 手 続 期 間
2014年3月13日(木) 時間未定	合 否 承 認 教 授 会

特待生資格選抜 実施しない

指定校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦

2013年10月10日(木)～10月18日(金)16時 9日間	願 書 受 付 期 間
2013年11月2日(土) 午前及び午後	入 学 選 考 日
2013年11月2日(土) 午後	判 定 教 授 会
2013年11月3日(日)	合 否 通 知 発 送 日
2013年11月5日(火)～11月15日(金) 11日間	入 学 手 続 期 間

公募推薦、専門高校推薦、社会人特別選抜

2013 年 10 月 21 日(月)～11 月 8 日(金)16 時 18 日間	願 書 受 付 期 間
2013 年 11 月 16 日(土) 午前	入 学 選 考 日
2013 年 11 月 18 日(月) 時間未定	判 定 教 授 会
2013 年 11 月 18 日(月)	合 否 通 知 発 送 日
2013 年 11 月 19 日(火)～11 月 29 日(金) 11 日間	入 学 手 続 期 間

一般入試

2014 年 1 月 9 日(木)～1 月 31 日(金)16 時 23 日間	願 書 受 付 期 間
2014 年 2 月 5 日(水) 午前	入 学 試 験 日
2014 年 2 月 5 日(水) 時間未定	判 定 教 授 会
2014 年 2 月 6 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2014 年 2 月 7 日(金)～2 月 19 日(水) 12 日間	入 学 手 続 期 間

3. 専攻科

2013年度 専攻科介護福祉専攻の事業計画

1. 教育内容
 - (1) 教育の充実
 - ①専攻科教員が児童福祉学科の科目を、児童福祉学科教員が専攻科科目を担当するなど、子どもから高齢者までの幅広い学び
 - ②大学における教員間の連携
 - (2) 実習体制の充実
 - ①実習への準備と実習後の学びを重視
 - ②実習連絡会の開催
2. 就業力支援
 - (1) キャリアファイルへの取り組み
 - (2) かながわ高齢者福祉研究大会に参加
 - (3) 卒業生による職場体験講義
 - (4) 特別講義
3. 介護福祉士資格取得支援
 - (1) 介護技術講習会
 - (2) 介護福祉士国家試験筆記試験対策
4. 相模原市内の介護職員のスキルアップ支援
相模原市高齢者福祉協議会主催の介護職員研修の講師
5. 地域貢献活動
市民大学
6. 卒業生への再教育支援の検討

2014 年度 専攻科介護福祉専攻 入試日程

i 日程(学内、卒業見込者対象)

2013 年 10 月 4 日(金)～10 月 15 日(火)16 時 12 日間	願 書 受 付 期 間
2013 年 10 月 19 日(土) 午前	入 学 試 験 日
2013 年 10 月 23 日(水) 14 時 50 分	合 否 判 定 教 授 会
2013 年 10 月 24 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2013 年 10 月 25 日(金)～11 月 14 日(木) 21 日間	入 学 手 続 期 間

A 日程

2013 年 10 月 16 日(水)～10 月 25 日(金)16 時 10 日間	願 書 受 付 期 間
2013 年 11 月 2 日(土) 午前	入 学 試 験 日
2013 年 11 月 2 日(土) 午後	合 否 判 定 教 授 会
2013 年 11 月 3 日(日)	合 否 通 知 発 送 日
2013 年 11 月 5 日(火)～11 月 15 日(金) 11 日間	入 学 手 続 期 間

B 日程

2013 年 11 月 15 日(金)～11 月 27 日(水)16 時 13 日間	願 書 受 付 期 間
2013 年 12 月 7 日(土) 午前	入 学 試 験 日
2013 年 12 月 9 日(月) 時間未定	合 否 判 定 教 授 会
2013 年 12 月 10 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2013 年 12 月 11 日(水)～12 月 20 日(金) 10 日間	入 学 手 続 期 間

C 日程

2013 年 1 月 23 日(木)～1 月 31 日(金)16 時 9 日間	願 書 受 付 期 間
2014 年 2 月 5 日(水) 午前	入 学 試 験 日
2014 年 2 月 5 日(水) 時間未定	合 否 判 定 教 授 会
2014 年 2 月 6 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2014 年 2 月 7 日(金)～2 月 21 日(金) 15 日間	入 学 手 続 期 間

D 日程

2014 年 2 月 17 日(月)～2 月 28 日(金)16 時 12 日間	願 書 受 付 期 間
2014 年 3 月 3 日(月) 午前	入 学 試 験 日
2014 年 3 月 5 日(水) 時間未定	合 否 判 定 教 授 会
2014 年 3 月 6 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2014 年 3 月 7 日(金)～3 月 14 日(金) 8 日間	入 学 手 続 期 間

4. キリスト教活動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人一人が聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、宗教部長、チャプレン、教授会成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

1 年間聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年間聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

2 始業礼拝

前期・後期の始業時に学びと学生生活が守られるようともに礼拝を捧げる。

3 チャペルアワー

本学の建学の精神である「愛と奉仕」をともに学ぶことを目的とし、毎週月曜日にチャペルアワーを計画し実施する。

4 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

1. イースター礼拝（4月8日）
2. 創立記念礼拝（4月22日）
3. 召天者記念礼拝（11月11日）
4. クリスマスツリー点火祭（12月2日）
5. クリスマス礼拝（12月16日）
6. 卒業感謝礼拝（3月13日）

5 新入生研修会

4月3日に新入生研修会を実施する。レクチャー礼拝と講演コンサートを通して、今後の学びの礎を築く。

6 クリスマスコンサート（子育てサロンはっぴいと共催）

子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

7 チャイルド・ファンド・ジャパンの里親支援と全国の児童福祉施設等への支援

チャペルアワーと特別礼拝等での献金を、チャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシッププログラム、及び全国の児童福祉施設等の活動支援のために送る。

8 和泉クリスチャン・フェローシップ (I. C. F)

聖書やキリスト教に基づく物語などを学び合い、創作や発表を企画しを通して学生同士の交流を深めるとともに、キリスト教活動を豊かに経験する。

9 学生聖歌隊

讃美歌、子ども讃美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともに音楽に親しむとともに、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕を中心に活動する。練習しチャペルアワー、学内諸行事にて奉仕する。

10「宗教部便り」の発行

宗教活動の報告、計画等の伝道のための文章などを載せた機関誌を発行する。

11 教会紹介

掲示や、チャペルアワーでのチラシ配布などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」の授業と連携する。

4. 2013 年度の重点課題

1 チャペルアワーの充実

チャペルアワーは出席することが当たり前という雰囲気を作ることを目指し、学生に浸透させていく。宗教部からだけでなく学生相互の働きかけが起こるようにチャペル委員にレクチャーする。また、キャリアカルテファイルを活用し、チャペルアワーの恵みと学びの蓄積を、一人一人が記録として残す取り組みを継続する。

2 学生のキリスト教活動の支援

チャペル委員、学生聖歌隊、I. C. F の活動を安定的に継続していくことを目指す。さらに、活動を通して神様の恵みを知り、感謝と喜びをもって、自発的に奉仕を続けていけるように、促し支える。

3 地域に開かれたキリスト教活動の展開

地域に開かれたキリスト教主義学校として、地域への貢献度を高めることを目指す。クリスマスツリー点火祭、クリスマスコンサート、授業科目「ハンドベル」の学外での依頼演奏などを通じ、地域のあるキリスト教主義学校として、近隣の方々との関わりを大切にする。

5. 研 究 活 動

杉 山 佳 子 特任教授

【研究課題】

「子育て家族の支援とソーシャルワーク」

「認知症高齢者と家族への支援方法について」

【教育課題】

保育士養成教育における相談援助

【学会参加予定】

日本介護福祉学会

日本社会福祉学会

日本社会病理学会

日本ソーシャルワーカー協会

【社会的活動】

豊島区立東部子ども家庭支援センター 専門相談員

社会福祉法人基督教児童福祉会バット博士記念ホーム 監事

社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 理事

日本ソーシャルワーカー協会 研修委員

鈴 木 敏 彦 教授

【研究課題】 ・戦前期・経済保護事業に関する史的研究

・福祉サービス利用者の権利擁護とソーシャルワークに関する研究

【教育課題】 ・短期大学における入学前教育・初年次教育のあり方について

・短期大学における退学防止に関する方策について

・児童福祉専門職養成における社会福祉・ソーシャルワーク教育のあり方について

【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、
日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、
日本居住福祉学会、日本住宅会議、日本社会福祉教育学会、大学教育学会、
初年次教育学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、
成年後見法学会 他

佐 藤 守 男 教授

【研究課題】 ・欧米の美術館・画廊の調査研究

・彫刻等の表現（形・素材）の可能性について

【教育課題】 ・造形表現等の教材研究

【学会参加予定】 個展、グループ展、日本美術家連盟、
民族藝術学会、日本臨床死生学会 他

武 石 宣 子 教授

- 【研究課題】
- ・リトミック教育に関する研究
 - ・音楽療法に関する研究
 - ・ソルフェージュの研究
 - ・即興演奏の研究
 - ・プラスチック・アニメの研究
 - ・身体表現を通じた音楽理解への可能性
 - ・カリキュラム研究《リトミック、器楽（ピアノ）、保育内容（表現）》
 - ・ML導入に向けた新カリキュラム研究
- 【教育課題】
- ・リトミック教育の創造的遊びへのアプローチ
 - ・器楽(ピアノ)の授業《ML導入：子どもの歌、鍵盤楽器による基礎技能》
 - ・親子リトミック（親子ふれあい遊び）の指導方法の充実
 - ・教育法：《ダルクローズ・リトミック》

【所属学会等】

- 大学教育学会 ○日本保育学会 ○日本音楽教育学会
- 日本ダルクローズ音楽教育学会 ○大学音楽教育学会
- 日本乳幼児教育学会 ○日本キリスト教社会福祉学会
- 初年次教育学会 ○日本レジャー・レクリエーション学会
- 全日本ピアノ指導者協会 ○アクティビティ・サービス協議会
- 幼児音楽研究会 ○学校伝道研究会

櫻 井 奈津子 教授

【研究課題】

- ・家庭養護推進の課題
「養育里親」「小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）」を対象とした支援活動において、児童相談所や児童福祉施設のワーカーの資質として求められているものを明らかにしながら、里親支援に携わるワーカーの養成についての研究活動を行う。
- ・要保護児童への自立支援

NPO神奈川フォスターケアサポートプロジェクトによる里子の自立支援事業、里親里子の交流事業等の活動への参加を通し、児童養護施設入所児童、里親・ファミリーホーム委託児童等との関わりをもちながら、自立支援への研究を行う。

【教育課題】

- ・担当科目（児童家庭福祉・社会的養護の原理・社会的養護の内容・インターナショナルソーシャルワーク・子どもと暮らし）の内容充実。

学生にとって具体的に理解しやすい教材（ビデオ、資料等）の活用とタイムリーな話題の提供を通して、子どもを取り巻く社会的環境や家族の問題について理解を促してゆく。

「児童家庭福祉」では、子どもやその家族に対する理解と、子どもの権利擁護の視点からの、社会福祉サービスのあり方について学びを深め、学生が「援助者」として望ましい子ども観を確立していかれるよう働きかけてゆく。

「社会的養護の原理」では、「子どもが安心して安全な家庭生活を送る権利」を保

障するための社会的養護の一環として、入所型の児童福祉施設が果たす役割を理解し、施設実習への導入をふまえた授業展開を行う。また相模原市内在住の養育里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

「社会的養護の内容」では、子どもと生活を共にし、生活の中での援助をめざす保育者としての子ども理解を促し、併せて子どもにとってより望ましいケアのあり方を、グループ討論やグループでの作業を通して学び、保育実習Ⅰ（児童福祉施設）への事前学習や事後の振り返りと連動させて授業を展開する。さらに、相模原市内在住の養育里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

「インターナショナルソーシャルワーク」では、タイにおける福祉施設等の見学を通して、広い視野で子どもの福祉・保育を考えるきっかけを提供する。

「子どもと暮らし」では、子どもが日々の生活、保育を体験することによって育まれる社会性を意識しながら、保育場面での展開（指導や援助）を考えて、実践的な学びを深める。

「インターナショナルソーシャルワーク」と「子どもと暮らし」は選択科目なので、履修者の状況により授業内容に柔軟性をもたせたい。

・実習指導の充実。

実習体験を通して、保育者としての基本的な態度、姿勢を身につけ、現場における保育者の役割・責任を効果的に学べるよう、実習前の準備や実習後のフォローを丁寧に行い、卒業後の進路支援につなげてゆく。

担当グループの学生とのコミュニケーションを図り、とくに単位修得が困難な学生への個別対応を丁寧に行う。

・教科書等教材作成

社会的養護、児童家庭福祉分野において、簡潔でわかりやすい教材作成を行う。

【社会活動】・児童養護施設、神奈川県内里親会等との連携により、里親及び里親支援に携わる職員への研修活動に協力する。

・NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクトが行う里親研修活動、高校生の里子を対象とした自立支援活動に協力する。

・相模原市における児童福祉活動への協力

・第三者委員活動

社会福祉法人あすはの会 在宅福祉サービス部みしょう

社会福祉法人恩賜財団神奈川同胞援護会 母子生活支援施設グリーン
ヒル相模原

【参加予定学会】日本子ども家庭福祉学会（埼玉）

日本子ども虐待防止学会（長野）

IFCO(国際フォスターケア機構) 世界大会（大阪）

井 狩 芳 子 教授

【研究課題】

①保育園児と幼稚園児の「あそび・生活リズム・基本的生活習慣」の獲得プロセスに関する研究。5年間の継続研究を終了したので、研究全体の成果を検証し、次の研究の方向性を探る。

＊ 協力園（予定）：大宝保育園（茨城県）、ナザレ幼稚園（神奈川県）、他

②現代日本人の生活習慣の獲得の現状と課題の模索

【教育課題】

①「保育内容『健康』」：ア、1年生の履修科目であるので、特に前期履修学生に対しては興味喚起のためトピックスを多く提示する。イ、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫を重ねる。ウ、各回の授業開始時と終了時のキーワード確認・記入式のレジメの配布等により学生の知識の定着をはかる。エ、2012年度後期は、学生の知識定着に関して一定の成果が得られたので、更に学生の知識の実態把握に努め、本学学生の理解促進のための伝達力を磨く。オ、キャリア・ファイル・カテの自身の健康チェックと連動させ、「学生自身が“からだでわかる”」授業を展開したい。

②「乳幼児体育」：我国の「保育現場における運動あそびの指導」は、体育専攻の指導者が行うケースが多い中、「保育者自らが、いつでも・どこでも、気軽に運動あそびの指導が出来る事」を目指し、引き続き「実践と理論に強い保育者」を育てる授業を展開していく。終始「ヒトが育つために、何故“運動あそび”が必要なのか」という視点に立ち、全期間の前半には乳児対象・後半には幼児対象とし、仕上げとして、部分指導案や簡単な年間プログラム作成まで視野に入れた指導をおこなう。また、日本発育発達学会が2009年度に設けた「認定資格『幼少年体育指導士』」の講習内容も積極的に取り入れ、“学生自身が「からだでわかる」」授業にしたい。

③「体育（実技）」：年間を通し、保育者に必要な基本的な体力の獲得を意識的に勧める。併せて、体力の基本となる、自分の日常生活を振り返り、自己課題をもつように勧める。また、引き続き、体育実技担当者全員で、学生に興味を喚起する教材の検討をすすめ、また、恵まれた教育環境（体育館・戸外）を十分に生かす授業内容を計画したい。

「体育（理論）」：授業回数が少ない中、現代健康課題・健康観を知り、学生自身の一生涯に生かすことのできる内容を絞り込んで提供する。

④保育・教育実践演習：担当初年度であるので、「保育内容『健康』」の領域を生かしながら、試動していきたい。

⑤実習指導・グループ担任：不安感を抱く学生・状況困難な学生が増加する中、可能な範囲で学生の気持ちを汲み取る努力をしたい。併せて、今の日本の社会情勢を把握することや、若い世代の文化にも興味をもちつつ、自身のストレスを上手くコントロールする術の習得も重要課題とし、ひいては、その術を学生と共有する力をつけたい。

【主な社会活動】

- ・ 「小児保健研究（日本小児保健学会発行雑誌）」投稿論文査読委員
- ・ 「幼少年体育指導士（日本発育発達学会認定資格）」認定講座実行委員会委員
- ・ 「神奈川県相模原市男女協同参画課諮問委員会」会長
- ・ 「子どものからだと心連絡会議」全国委員
- ・ 「NPO法人 セルフケア総合研究所」 理事
- ・ 「社会福祉法人 歩育の会」 理事

【学会参加予定】

- ・ 日本保育学会（5月）
- ・ 日本小児保健学会（10月）
- ・ 子どものからだと心・全国研究会議（12月）
- ・ 日本発育発達学会（3月）

横 川 剛 毅 准教授

- 【研究課題】
- ・障がいのある人への虐待防止と適切な支援
 - ・障がいのある人の支援者のセルフマネジメント
- 【教育課題】
- ・対応が難しい子への適切に向き合うことができる保育者・支援者の養成
 - ・障がいに関する正しい知識をもち、実践できる保育者・支援者の育成
- 【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本地域福祉学会

松 浦 浩 樹 准教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と中心性について」（その3）継続研究
2. 幼児期における両義的認識の発達過程について
 - * 上記 1.2 は、特に 2012 年度は「相互性」を基本概念において研究
3. キリスト教保育の現状と課題（2012 年度紀要にその方向性を示した。2013 年度継続研究）
4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究
 - （上記 3 と関連させて、職業観と使命感の育成と教育の課題について）
5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究（～随時継続）
6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究（～2012 年まで）
7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題（～2015）、保育就業力育成プログラムの現状と課題

上記テーマに基づき、協力園（幼稚園・保育園）での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ 6、7 に関して、学内で関与する学生、保護者（親子）との実際のなかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

【教育課題】

- ・ 短大における学び・保育者への学びについての態度形成について、新入生に対してグループ指導並びに「教育原理」の授業の中で実践していくこと。また保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相関させるプログラムの開発と工夫
- ・ カルテファイルシステムと「キャリアデザイン A. B」、さらにグループアドバイザー指導を連動した教育支援体制の確立
- ・ 「キリスト教保育」、「保育内容 人間関係」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ（事例・ビデオ）を学生に還元し、人間現象を考察する力を促進する。
- ・ 担任グループの学生の学生生活の充実と生活技術・保育技術習得の支援など個別指導について

【参加予定学会等】

- ・ 日本保育学会
- ・ 日本乳幼児教育学会
- ・ 日本キリスト教教育学会
- ・ 子どもと保育総合研究所・所員研究会
- ・ OMEP（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
- ・ 幼児保育実践研究会

- ・ キリスト教保育連盟 研究委員会
保育実践研究委員会・委員長
- ・ 学校法人 愛育学園 愛育養護学校 学内研究会

【地域貢献】

- ・ 子育てひろば「はっぴい」の運営・企画
- ・ キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
- ・ 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
- ・ 幼稚園・保育所における「保護者会」(父親の会)などの講師

【その他委員会等】

- ・ 子育て支援プログラム運営委員会の委員長として、委員会とひろばの運営と充実に向けて
- ・ 「保育就業力支援プログラム」の開発担当者として、G P 作業委員（新設C D委員）を基に、キャリアカルテファイルの今後の運営と改善を執り行う。
- ・ キャリアデザインセンター（C D C）の有効活用とプログラム、及び地域貢献の新たな可能性を探る（子育て講演会等）
- ・ 実習・ボランティアセンター長として、学生の実習支援に立ったカリキュラムの見直しと検討
(キャリアカルテファイルと連動した総合的・系統的学びの企画運営)

矢 野 由佳子 准教授

- 【研究課題】 ・ 乳幼児の発達と心理臨床に関する文献調査
・ 保育者のメンタルヘルスに関する調査研究
- 【教育課題】 ・ 子どもや保護者の心理に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接することのできる保育者の育成
・ 心身の健康を管理できる保育者の育成
- 【学会参加予定】 日本発達心理学会 他

平田 美智子 准教授

- 【研究課題】 ・ 里親支援機関に関する調査研究（厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業「社会的養護における児童の特性別標準的ケアパッケージ被虐待児を養育する里親家庭の民間の治療支援機関の研究」研究代表者 開原久代 分担研究者）
- ・ 各国のソーシャルワーカーの資格に関する調査研究（日本社会福祉士会の国際・滞日外国人支援委員会で共同研究）
- ・ アジアの災害対策とソーシャルワークに関する研究（社会福祉専門職団体協議会の国際委員会とアジア太平洋地域会議で共同研究）
- ・ 女性のキャリア教育（個人研究）
- ・ 子育てサークルと支援者のネットワーク作りに関する実践研究（個人研究）

- 【教育課題】
- ・ キャリアデザイン教育（キャリアデザイン委員会として）
 - ・ 児童家庭福祉・子どもの権利を守れる保育者の養成
 - ・ 子育て支援者となる学生・地域ボランティアの育成
 - ・ 学生の児童虐待防止オレンジリボン・キャンペーン運動の推進
 - ・ 学生のボランティア活動支援（障がい児者、児童養護施設他）
- 【学会参加予定】
- ・ 日本保育学会（5月、中村学園、北九州）（口頭発表）
 - ・ IFSW（国際ソーシャルワーカー連盟）アジア太平洋地域会議・総会（6月4-6日、フィリピン、マニラ市）
 - ・ 日本社会福祉士学会（7月6日-7日、岩手）
 - ・ IFCO（国際里親大会）（9月14-15日）
 - ・ 日本社会福祉学会（10月、北海道）（口頭発表予定）
- 【地域貢献】
- ・ 相模原市子ども家庭相談課と協働で児童虐待防止推進月間（11月）に協力
 - ・ 相模原市の障がい者施設と協働で学生・障がい者の交流（松が丘園とパン販売）
 - ・ 相模原中央支援学校と学生の交流事業
 - ・ 横浜市の地域子育て支援拠点（NPO法人グリーンママ）支援（専門相談員）
- 【社会的活動】
- ・ 社団法人日本社会福祉士会（本部理事・国際・滞日外国人支援委員会委員長）
 - ・ 国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）アジア太平洋地域 役員（会計）
 - ・ 横浜市地域子育て支援拠点（NPO法人グリーンママ）理事・専門相談員
 - ・ 「養子と里親を考える会」（研究会）理事
 - ・ 座間市地域包括支援センター・地域密着型運営協議会及び地域密着型サービス運営委員会 委員（学識経験者）

山本 美貴子 准教授

- 【研究課題】
- ・ 自発的な遊びの中に見られる子どものリズムカルな言葉・音・動きによるやりとりと遊びの展開に関する研究
 - ・ 「保育の中での音楽に関わる授業研究」
学生の意識調査結果の分析・考察を通して、学生がどのように子どもの表現の概念を学ぶかを探る
 - ・ 子どもの表現を育むため「保育者研修」について
実際の園内研修での体験や振り返りを軸に、子どもとの毎日の生活や遊びの中の音楽や表現の魅力に気づき、さらに広げたり深めたりするための保育者自身の感性・表現力・レパートリーや援助技術の向上を目指す研修方法・内容を探る
 - ・ 和泉短大生が取り組む実習や採用試験のピアノ・音楽表の課題についての傾向を探る調査の実施を探る
- 【教育課題】
- ・ 「保育音楽」の授業内容と方法について
前期 子どもの遊び歌・ゲームなどの演習と、後期 遊び歌の創作演習課題とのより密接で効果的な展開を探る。

2012年度に引き続き、特に、創作する遊び歌・発表形式などの改善を試みる。

- ・「子どもと表現Ⅰ」の授業内容と方法について

この数年、非常勤担当教員との共通シラバスにより子どもの表現行動・保育内容に即した総合的な表現について学習・体験する授業を展開、一定の効果をj得ている。更に各教員の反省・意見を集約、音楽・表現に関する教育内容を精査・工夫してゆきたい。2012年度は各クラスのより円滑で充実した授業実践を目指し、課題設定・教材準備の方法を改善する予定。

- ・「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について

新体制の宗教部と連携し、学生にとって魅力的な聖歌隊活動、曲・声部編成などを工夫する。昼休みの短い時間での楽しく有意義な練習が課題であるが、2013年度は新たに、AudioVisual 機器を活用してみたい。

- ・複数教員での担当科目「保育・教育実践演習」の授業内容と方法について

2011年度～引き続き、授業内容や課題の省察・改善に取り組み、より2年間の学びの定着と就業力育成に有効な教育プログラムの推進を図りたい。

- ・グループ運営の充実と 個別学生指導について

2012年度はグループ用に作成している補助教材（プリント・学習段階の設定）を改定。更に現場実習を充実させるための授業展開を探る

【学会参加予定】日本保育学会（5月）、全日本音楽教育研究会（6月）

大 下 聖 治 准教授

【研究課題】

- ① 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム
- ② 運動技術の方法的運動系列に関する検討
- ③ 指導技術(コーチング)の習得に関する研究

【教育課題】

- ① 乳幼児期に効果的な運動・遊びについて、学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
- ② 保育の現場で必要と思われる体力的要素の養成とサポート
- ③ 子どもの遊びや運動に積極的に関わり、工夫できる保育者の育成
- ④ 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーについて
- ⑤ 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援について

【学会参加予定】

- ① 日本体育学会
- ② 日本体力医学会
- ③ 日本保育学会

【社会的活動】

- ① NPO 法人「世界健康・スポーツ振興協会」理事
介護予防の運動処方とシステム開発に関する研究・事業推進

片山 知子 准教授

【研究課題】 1) キリスト教に基づく保育の考察

- ①キリスト教保育の実践研究
- ②保育者養成におけるキリスト教保育授業の構築
- ③1960年代前後におけるキリスト教保育の歩みを調査

2) 持続可能な発展 (ESD) の幼児教育

- 文科省科研費による共同研究に参加
- 「地域コアステーションとしての新しい保育モデル
の構築と価値・機能の検討」

3) 「環境を通して行う保育」の実践的考察

4) 子育て支援の取り組みと展望の検証

【教育課題】 1) 担当各教科の指導内容の工夫と充実

- 2) 保育者をめざす学生が建学の精神を思い起こしながら
専門職への学びができるよう援助する

- 3) CD センターの活用で専門職教育の充実を図る

【学会参加予定】 日本保育学会

(2013 年度中村学園大学：自主シンポジウム企画参加)

OMEP 日本委員会総会

(OMEP 日本委員会個人会員および団体会員として理事)

キリスト教教育学会

キリスト教保育連盟夏期講習会

(キリスト教保育連盟常任理事・講習会委員長)

乳幼児教育学会

子どもと礼拝研究会

【地域貢献】 相模原市次世代育成支援行動計画推進会議委員、副会長

近隣地域高校での模擬授業

横浜市幼稚園協会加盟園での研修協力

一般財団法人キリスト教保育連盟常任理事としての各部会講師

キリスト教保育連盟神奈川部会加盟園での研修協力

相馬 靖明 准教授

【研究課題】

1. 多くの地域で保幼共通カリキュラムや小学校スタートカリキュラムが作成されているが、今年度は、接続期における保護者にとっての視点を明らかにするために、アート鑑賞という場での大人と子どものナラティブについて実証調査を行う。

2. 保育者の成長契機の研究

保育者は自らの成長につながる学びをどのように構築しているのかについて、聞き取り調査をもとに考察している。今年度は、職場での ITC を活用した成長支援について、研究協力者への聞き取り調査を行う。

【教育課題】

1. 「言語表現」授業実践を通して、就業につながる力を育成すること。

2. 学生の実態を捉えたカリキュラムポリシーの展開を図ること。

【参加予定学会】

1. 日本保育学会 (2012 年 5 月)
2. 子どもと保育実践研究全国大会 (2012 年 8 月)
3. 全国保育士養成協議会研究大会 (2012 年 9 月)
4. 日本教育工学会全国大会 (2012 年 9 月)

【社会活動】

1. 子どもと保育総合研究所 (研究大会・セミナーなどの企画運営)
2. 神奈川県私立幼稚園連合会特別研究 B 部会 (環境) 年間講師
3. 平塚市私立幼稚園協会研究部会 (保護者支援) 年間講師
4. 開成町立開成幼稚園研究会講師

戸 塚 恵 子 准教授

【研究課題】

- ・ 保育現場の健康課題における保育者の対応について
- ・ 子育て支援における地域の人材の活用と育成について
- ・ 気になる子どもへの支援と医療・保健・福祉の連携について
- ・ 地域包括支援センターにおける現状と課題について

【教育課題】

- ・ 医療や保健、看護の知識と技術を持ち、現場で的確に判断し対応できる保育者の育成
- ・ 母子や親子など家族支援の視点を持ち、対応できる保育者の育成
- ・ 子どもを取り巻く健康課題について、アセスメントし、関係機関と連携しながら課題の軽減や解決に導くことができる保育者の育成

【参加予定学会】

日本公衆衛生学会、 日本小児保健学会、日本介護福祉学会、
日本自立支援学会、 日本保育園保健学会 、日本抗加齢医学会

佐久間 志保子 専任講師

【研究活動】

- ・ 在宅介護における介護福祉士の役割
- ・ 災害時における感染症について
- ・ 災害時の福祉避難所のあり方
- ・ 障害者の在宅生活の支援のあり方
- ・ 成年被後見人の自己決定について

【学会参加予定】

日本在宅ケア学会、日本社会福祉学会、日本地域看護学会、
日本介護福祉教育学会、日本環境感染学会、日本老年社会科学会
日本成年後見法学会入会、日本認知症ケア学会入会

河 合 高 鋭 専任講師

【研究課題】

- ① 保育の専門性における保育者意識についての研究
- ② インクルーシブ保育と保育原理についての研究
- ③ 自閉症幼児に関する保護者支援等に関する研究

【教育課題】

- 担当科目「保育課程論」の授業研究
- 学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう一層の授業の充実と工夫を図る。

- 「保育原理」「保育内容ことば」授業内容の改善
- 担任グループの学生の学生生活の充実と生活技術・保育技術習得の支援
- 実習指導において保育者としての大切な心的態度やマナーについて

【学会参加予定】

- 日本保育学会
- 日本特殊教育学会
- 日本自閉症スペクトラム学会
- 日本人間関係学会
- 日本 LD 学会
- 日本発達障害学会
- 日本児童学会

【社会的活動】

- 日本人間関係学会 事務局幹事
- 神奈川県大和市 NPO 法人ピコピコ 理事
- 日本自閉症協会神奈川県支部自閉症児・者親の会大和市部勉強会 講師
- 東京都葛飾区私立幼稚園連合会 葛飾区私立幼稚園教育実践研究会 講師
- 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団自閉症カンファレンス日本 サポートスタッフ

佐藤 美紀 助教

【研究活動】 ・ 高齢者福祉施設介護職員における認知症に関する意識調査

【学会参加予定】 ・ 日本介護福祉学会

山本 正司 助教

【研究活動】

- (1) 『現代の貧困ー住宅と貧困ー』『スラム街の生態からスラム街の概念再考ー 寿地区および釜が崎地区の実態調査を通じてー』

共同研究 研究主任 東洋大学名誉教授 天野マキ（編著）書籍発刊予定

共同研究者 本学 教授 鈴木敏彦

なお、本研究は、2012 年度実施を継続します。

- (2) 社会福祉学の方法を再考するー社会科学的方法論を改めて見直すー

【学会参加予定】・ 社会政策学会，社会保障法学会，社会事業史学会

久保田 美沙子 助教

【研究課題】

- ・ 母子生活支援施設における子育て支援に関する研究

【教育課題】

- ・ 実習・ボランティアセンター所属教員としての職務内容の充実と学生支援

【社会的活動】

- ・ 相模原福祉オンブズマンネットワーク オンブズマン

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 武石宣子）

1. 教育の内容

（1）教育課程について

- ①教科に関する科目と教職に関する科目の専任教員の配置
- ②教員人事
- ③休業日を授業を行う日に変更
- ④土曜日の行事・授業の行事・補講日
- ⑤新設授業教科目について
- ⑥インターナショナル・フィールドワーク

（2）FD・SDの充実

- ①2011年度の自己点検・評価報告書の作成
- ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方
- ③教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ④全教職員参加のFD・SD研修会開催

（3）授業環境改革の更なる検討

（4）教育交流提携高の高校生へのサービスの見直し

- ①聴講生受け入れについて
- ②市内高校長との教育研究会開催

（5）時間割の工夫

- ①月曜日の授業は専任教員中心
- ②2年生科目：前期13回・14回・15回分の授業日の確保（5時限目に導入）
- ③専任教員については研究日の他に授業準備日として、授業のない日を設定
- ④2014年度生からの授業日及び実習期間の検討

2. 教育の環境整備

- （1）教室の広さ、数、運動施設、校庭、畑等の有効な活用
- （2）教育用機器備品についての整備と検討

3. 教育目標の達成度と教育効果

- （1）教育目標の達成に関する評価の方法について
- （2）器楽（ピアノ）＜ML導入に向けカリキュラム＞検討
- （3）退学者、休学者の近年の傾向と背景を把握し、教育指導への反映と検討
- （4）卒業生や、専門就職先からの卒業生に対する評価

4. 学生支援

- （1）障がいその他の特別な配慮を要する学生の勉学への支援を検討
- （2）入学前教育の充実（入学直後の初年次教育含む）
 - ①2012年度に行った入学前教育(4回開催)の継続（12月・1月・2月・3月）
 - ②入学前の無料ピアノレッスン＜ML導入検討＞（3回開催）の継続
- （3）保育士・幼免以外の資格取得の支

- ①おもちゃインストラクター取得支援
- ②その他の資格取得の検討
- (3) 入学時や後期開始前に実施しているガイダンスの充実と工夫
- (4) 履修チェック方法の活用
- 5. 卒業生への再教育支援
 - (1) 卒業生に対する研修等の再教育の機会を提供することについての検討
 - (2) 本学での夏期リカレント講座及びその他の関連講座の開催について検討
 - ①本学独自で夏期リカレント講座開催
 - ②幼稚園協会等主催セミナーに協力
- 6. 教員の交流と研究活動の支援
 - (1) 全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の有効性を高める工夫の検討
 - (2) 教育指導体制に関し教員間の交流や授業参観の導入
 - (3) 将来計画のための教員懇談会の企画・実施
 - (4) 教員の研究活動の推進及び和泉特別研究費の使用方法的検討
 - (5) 文部科学省特色G P・現代G P・学生支援推進プログラム、科研費の外部からの研究資金調達の積極的支援
 - (6) 教員の教育、研究並びに社会的な活動の適正な推進の支援
- 7. 保護者（保証人）会について
 - (1) 入学式後の保護者（保証人）会の開催
 - (2) 年度途中での保護者（保証人）会の開催に検討
 - (3) 保護者（保証人）への成績の報告
- 8. 情報公開について
 - (1) 自己点検・評価報告書の開示
 - (2) 教員情報の開示

学生委員会（学生部長 佐藤 守男）

- (1). キャリアデザインA（学生生活支援）・キャリアデザインB（進路支援）の充実を図る。
- (2). 進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。
- (3). 学生支援におけるグループ・アドバイザーとの連携強化を図る。
- (4). 学資支援（奨学金制度）の充実を図る。
- (5). 学生生活向上のための取り組みを学友会とともに進める。
- (6). 学友会活動（いずみ祭・新入生歓迎大会等）を支援する。
- (7). 学生の課外活動を支援する。
- (8). 健康管理センターを充実させる。

図書委員会（図書館長 井狩 芳子）

《基本戦略：ラーニング・コモンズの視点から、本学図書館の使命を探る》

1. 特設展示の充実（新着図書紹介・各種特集図書(授業科目と連携等)の別置・企画展示)
2. 蔵書の充実（2013 年重点項目：CDC と連携した絵本の充実）
3. ラーニング・コモンズを踏まえた図書館利用者サービスの向上
 - ①談話可能スペースの拡大（5 号館丸テーブルを搬入）＊本図書館の今後の方向性の検討
 - ②館内使用限定ノートパソコン設置の検討（案：6 月以降 212 教室より一部移動）
4. 図書館利用者のモラル向上をめざした人的・環境整備（掲示・声かけ・他媒体の検討）
5. 図書館ホームページの拡充（「2012 年度開始」の本格始動）
6. 図書館主催の講習会の検討（隔年開催順では「紙芝居の会」を実施予定）
＊産業界のニーズの補助金により、予算上は「紙芝居の会・パネリアターの会」の 2 講座開催が可能になっている。
7. 研究紀要発行に関する検討
 - ①閲読基準の見直しと確認シートの作成
 - ②研究紀要の電子化の検討
8. (新規). OPAC を含む、図書館システムの再構築図書館システムの再構築

入試広報委員会（部長 鈴木 敏彦）

1. 広報関係
 - ①学園報の発行
 - ②入学案内冊子の作成及び充実のための検討
 - ③進学相談会等（高校教員向け、市内高校保育・福祉担当教員研究会、神奈川県私立短期大学協会主催相談会）およびオープンキャンパスの開催及び充実のための検討
 - ④高等学校進路説明会（進学説明・模擬授業）の開催及び充実のための検討
 - ⑤公開講座（市民大学等）の開催及び充実のための検討
 - ⑥和泉プレカレッジ（高校生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討
 - ⑦広報戦略の検討
 - ⑧教職員説明会の開催
 - ⑨同窓会との交流
 - ⑩その他の広報活動の遂行
2. 入試関係
 - ①各入試（AO 入試、指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦、社会人特別選抜、一般）の公正かつ適正な実施
 - ②入試戦略（各入試の内容・方法の充実等）の検討
 - ③各大学の入試関係データ収集
 - ④その他の入試関係業務の遂行

1. 実習に関する支援

- (1) 実習施設の選定・連絡・調整
 - ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
 - ② 実習連絡会の実施（年3回）
 - ③ センター便り発行と実習先への送付（年1回）
- (2) 「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案
 - ① 授業実施計画の立案
 - ② 外部講師による「実習特別講義」「マナー講座」の計画・実施
 - ③ 実習の事前・事後指導に関わる指導内容の検討及び科目担当者への教材・情報提供
- (3) 実習実施に関わる業務
 - ① 実習登録の受付と配属
 - ② 諸手続への支援（登録カード、実習生調書、腸内細菌検査、実習日誌、実習定期等）
 - ③ 実習巡回指導にかかわる連絡・調整。（巡回担当教員の配属、調整等）
- (4) 実習教材・関連資料等の作成及び保管
 - ① 「実習の手引き」の作成、配布
 - ② 実習記録（日誌）の作成、配布
 - ③ 実習関連資料の収集と学生への提供
- (5) 学生の個人情報（実習生調書、巡回指導記録、実習出席票・評価票等）の管理
- (6) インフルエンザ予防接種の実施
- (7) 必要に応じた学生への個別支援
- (8) その他の実習に関わる支援

2. ボランティア活動への支援

- (1) ボランティア募集に関する情報収集と学生への情報提供
- (2) 活動先との連絡・調整
- (3) 活動状況の把握
- (4) ボランティア活動関連資料の収集と学生への提供
- (5) 「ボランティア活動の手引き」の作成、配布
- (6) その他のボランティア活動に関わる支援

3. 2013年度の重点課題

- (1) 学生の個別的な状況を配慮した実習実施への支援
 - ① 入学生の多様化、とくに健康面の課題を抱える学生の増加や学力差の拡大等を受け、実習実施・実習指導における学内コンセンサスの形成と、科目担当者との連携強化を図る。
 - ② 必要に応じて、学生相談室・保健室との連携を図り、個別的対応を要する学生の情報を、グループアドバイザーも含めて共有し、対応上のコンセンサスを得る。
- (2) キャリアデザインセンターの活用をはかる。
- (3) 実習管理システムの改善に向けた取り組みを行う。
- (4) 2014年度生からの実習実施時期の見直しに向けた検討・準備を進める

1 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4・8月を除く毎月、土曜日）

(1)子育て家族への支援

- ・子どもや保護者が安心できる安全な遊び場と、季節に応じたテーマによる活動や良質の文化に触れる体験の提供

学生ボランティアを活用し、遊びの見守り（安全への配慮）を行い、楽しい企画（お楽しみ）を提供していく。

- ・必要に応じた相談活動の実施

教職員から保護者に働きかけることで、子育ての負担や悩みの軽減を図り、必要に応じて専門機関を紹介する。

(2)学生に実践的な学びの場を提供する

- ・在学生に呼びかけて登録制のボランティアスタッフを募る

学生が乳幼児と触れあいながら乳幼児の状況を知る、あるいは実際に関わる中で子どもを学ぶ機会とする。

- ・学生主体の企画（絵本・紙芝居・パネルシアター・手遊び・スタンプ・演奏など）の発表の機会を作り、学生の学習意欲の向上を図り、実践経験の機会を増やす。

(3)高校生への対応

- ・プレカレッジ、入学前教育プログラムの一環として、「はっぴい」の活用に協力する。

(4)卒業生との連携

- ・卒業生も参加しやすい雰囲気を作り、活動時のボランティアを積極的に受け入れる。
- ・卒業生の子育て世代の参加も促し、同窓会の広報活動に協力する。

(5)「はっぴい」の周知活動

- ・本学のHPでの紹介の他、タウン誌等に記事掲載を依頼し、活動内容を広める。
- ・「はっぴい通信」の発行（年4回を予定）
- ・地域の子育て支援関係団体等の見学依頼に協力する。

(6)1年間の活動の振り返りと実態調査

- ・参加者の保護者に、実情と要望を探るためのアンケート調査を実施し、地域貢献の今後の在り方を模索する。
- ・ボランティアに参加した学生の現状や要望を探るための調査を実施し、今後の学習支援の方向性を探る。
- ・上記2つのアンケートを基に、「はっぴい」の活動を振り返りつつ、活動報告書、あるいは論文を作成し、紀要に掲載する。

(7)学生ボランティアの活動後の支援をバズセッション等のコミュニケーションの場で具体的に促進する。

2 子育てひろば(施設開放)：毎週木曜日の実施

- ・木曜日の地域親子へのCDCを遊び場として施設開放する中で学生たちが日常的に、自然に幼児やその保護者に関わることで、あるいは積極的に関心を寄せる機会とする。これは保育就業力の根底を支える実践となっている。このような自然な関わりを通して、学生が保護者のニーズを直に

感じとる機会ともなっていることの意義は大きい。今後も CDC の保育環境・教材(玩具・絵本)の質の高さを、保護者が共感し、強い関心を示している状況があることを踏まえ、更に環境の充実に努める。またこの児童の「文化」を備える・伝えることの意味を、授業・講義を超越して、学生が体感しており、その視点での取組みも継続していく。

- ・ 今後は、環境と教材の一層の充実と共に、「絵本・玩具 LIBRALY」として、親子に対して自由に絵本や玩具が貸出できるような場を設けたい。貸出することによる利用者の拡大、安定的利用を図ることは、本校の地域貢献ともなると考える。
- ・ 基本的には、相談に対してサポーターティヴな姿勢を保ち、必要な情報提供（専門機関の紹介も含む）を行っていくことと、季節に応じた話題の提供を行う。
- ・ 子育て講演会を企画し、子どもを遊ばせるだけではなく、保護者の実質的な悩みに向き合えるような講演者を招き、学生を巻き込みながら、大人の＜学び＞の場を提供する。

7. 広 報 活 動

(1) 製作・発行物

・ 入学案内書一式	2013年	4月下旬発行予定
・ 奨学金リーフレット	2013年	4月下旬発行予定
・ 高校1,2年生向けリーフレット	2013年	4月下旬発行予定
・ 専攻科介護福祉専攻リーフレット	2013年	4月下旬発行予定
・ オープンキャンパス告知ポスター	2013年	4月下旬配布予定
・ 首都圏高等学校送付入学案内書パック	2013年	4月下旬発送予定
・ izumi NEWS 17号	2013年	5月下旬発行予定
" 18号	2013年	8月上旬発行予定
" 19号	2013年	12月上旬発行予定
" 20号	2014年	3月中旬発行予定
・ 受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2013年	7月上旬発送予定
・ " ②(学園祭)	2013年	9月下旬 "
・ " ③(クリスマスカード)	2013年	12月上旬 "

(2) 主催型広報活動

- ・ 高等学校教員対象進学説明会（5月に2回）
- ・ 市内高校保育・福祉担当教員研究会（6月）
- ・ 和泉プレカレッジ（6月3年生対象・12月2年生対象）
- ・ オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・ オープンキャンパス

1	2013年 5月18日(土)	13:30～16:00
2	2013年 6月16日(日)	13:30～16:00
3	2013年 7月13日(土)	10:30～13:30
4	2013年 8月 3日(土)	10:30～13:30
5	2013年 8月21日(水)	13:30～16:00
6	2013年 9月21日(土)	13:30～16:00
7	2013年10月26日(土)	11:00～14:00
8	2013年10月27日(日)	11:00～14:00
9	2014年 1月11日(土)	10:30～12:00
10	2014年 3月29日(土)	13:30～16:00

(個別相談会)

(個別相談会)

(入試相談会)

(3) 参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内（ユニコムプラザさがみはら 3 階）「大学情報コーナー」（通年）〈新規出展〉
- ・高等学校内ガイダンス・模擬授業（随時）
- ・かながわ短大フェア（神奈川県私立短期大学協会）（6 月）
- ・進学相談会（会場形式）（随時）
- ・「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」（かながわ大学生涯学習推進協議会）（7 月・9 月）
- ・「光が丘わが町フェスタ」（11 月）

(4) 公開講座

- ・市民大学（相模原市・座間市と共催）前後期 1 講座ずつ
- ・介護技術講習会（6 月）
- ・介護福祉士国家試験筆記試験受験対策講座（9 月～12 月）

和 泉 短 期 大 学

(1) 雑誌・交通広告等掲載・掲出

(2013 年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1 年間
	大学・短大進路のてびき	4 月
ビー・プライム	デジタルパンフレット	1 年間
	公式サイト制作 Facebook	
マイナビ	マイナビ進学 (インターネット商品)	1 年間
リクルート	リクナビ進学 (インターネット商品)	1 年間
	進学事典 (応援号)	1 2 月
	就職・資格・キャリア号	3 月
キッズコーポレーション	「学校ガイド」 (インターネット商品)	1 年間
	進学の森 大学・短大カタログ	4 月
さんぽう	短期大学まるわかり事典	4 月
昭栄広報	進路ノート	4 月
進路情報ネットワーク	高校生のための進路相談サイト (インターネット商品)	1 年間
	高校生のための進路BOOK	4 月
進路企画	説明会用ガイドブック	4 月
育伸	配布用ガイドブック TRI-ANGLE (インターネット含む)	4 月
教育通信社	進路テキスト進学編	4 月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	5 月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5 月
タウンニュース	暑中お見舞い号・名刺広告	7 月
	元旦号・名刺広告	1 月
神奈川案内広告	神奈川新聞・迎春名刺広告	1 月
キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10 月
ティーディーエス	ipad 大学紹介	6 月

ニューアド社	淵野辺駅看板	1 年間
桜栄社	相模大野駅看板	1 年間
神奈川中央交通	バス停正式名称保守管理	1 年間
広告社	小田急線まど上連合広告	1 年間
	J R 横浜線まど上連合広告	1 年間

8. 施設・設備経費									
2013(平成25)年度 事業計画 予算									
(単位:千円)									
金額									
11,524									
(教員関係経費)									
研究費									
児童福祉学科									
単価									
教員数									
○ 教 授									
270 × 5									
1,350									
○ 特 任 教 授									
270 × 2 (学長含む)									
540									
○ 准 教 授									
260 × 9									
2,340									
○ 専 任 講 師									
250 × 1									
250									
○ 助 教									
50 × 1									
50									
○ 和泉特別研究費									
600									
○ 大学教育改革プログラム									
500									
18 計 5,630									
専 攻 科									
単価									
○ 専 任 講 師									
250 × 1 250									
○ 専 任 助 教									
200 × 2 400									
○ 昇 格 対 象 者									
10 × 1 10									
○ 和泉特別研究費									
200									
3 計 860									
21名 合 計 (6,490)									
教 材 費									
○ 専任・非常勤教員									
2,934									
旅 費 交 通 費									
○ 学 会 参 加									
1回 @50限度 1人 2回まで 21名									
2,100									
(施 設)									
27,746									
建 物									
内 容									
設置場所									
金 額									
① ML特別教室、会議室									
改修工事 206教室 新 規 2,138									
① 同上 電気工事									
改修工事 206教室 新 規 4,118									
① 会議室 給排水設備工事									
改修工事 206教室 新 規 880									
④ 入浴実習室、介護実習室、和室									
改修工事 研究棟地下 新 規 20,610									
計 (27,746)									
構 築 物									
○ ソーラーシステム(街路灯等)									
正門、4号館									
1年間検討していく									
計 ()									
(設 備)									
内 容									
設置場所									
金 額									
27,531									
教 育 研 究 用									
② ML用オルガン及び映像機器									
25台他 ML特別教室 新 規 19,890									
機 器 備 品									
③ 教授会、委員会他用デスク									
20 新会議室 新 規 2,007									
③ 教授会、委員会他用チェアー									
40 新会議室 新 規 2,487									
○ マークシートリーダー									
1 事務局 取替更新 945									
○ 成績管理他用サーバー									
1 事務局 取替更新 332									
計 (25,661)									
そ の 他 の									
① プロジェクター本体									
1 新会議室 新 規 678									
機 器 備 品									
○ ネットワークサーバーラック									
1 書庫(1) 新 規 420									
○ 冷蔵庫									
1 食堂厨房 取 替 更 新 399									
○ ガス炊飯器									
1 食堂厨房 取 替 更 新 430)									
計 (1,927)									
図 書									
○ 児童福祉学科 1,400 専攻科 40									
1,440									
計 (1,440)									
42									

2013(平成25)年度 事業計画 予算									
						(単位:千円)			
新規等の主な経費		内 容		個 数	場 所		金 額		
消 耗 品 費	①	流し台設置		1	新会議室	新 規	120		
	①	ML用マイクつきヘッドホーン		26	ML特別教室	新 規	327		
	①	靴箱		5	ML教室、4号館	新 規	309		
	⑧	掲示板、上部サイン			1号館	新 規	373		
	○	CDレコーダー(クラークホール)		1	3号館	新 規	142		
						計	(	1,271	)
通 信 費	○	リカレント講座案内状送料						210	
	○	インターネット基本料金						466	
						計	(	676	)
維 持 修 繕 費	①	ML特別教室、会議室改修工事			206教室			7,267	
	①	ML特別教室、会議室改修工事時空調・換気設備移設工事			206教室			2,004	
	⑤	1号館出入口 庇改修工事			1号館			2,437	
	⑥	照明器具取替(LED蛍光灯)			小児栄養実習室	取 替 更 新		1,206	
	⑦	厨房床面防水改修工事			食堂厨房			1,550	
	⑧	学生用他掲示板移設			1号館			214	
	○	成績管理用既存システム他 更新			教育学習支援他			3,780	
	○	植木剪定他			各館周辺			3,584	
	○	防犯カメラ保守サービス			1号館他			190	
	○	電動排煙オペレーター修理			3号館	3か所		700	
	○	各館 ピアノ調律			1号館			473	
	○	長机、椅子修理		鉋、鏝、塗装	各教室			420	
	○	長机、椅子修理		座板、背板取替	各教室			832	
	○	変電所塗装工事			1号館			210	
	○	変電所塗装工事			2号館			122	
	○	エレベーター機能維持工事			4号館			491	
							計	(	25,480
支 払 報 酬 手 数 料	⑤	庇工事官庁届出書類作成費			1号館			356	
	⑨	派遣社員 2名			産業界のニーズ'他			4,094	
	⑩	土地・建物売買契約仲介手数料			5号館			3,843	
	○	スクールバス委託運行費		@855.75 × 4台 × 12 M				41,076	
	○	監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬						3,287	
	○	食堂委託管理費						2,400	
	○	管理人業務費			1 . 4 . 5 号 館			8,210	
						計	(	63,266	)
賃 借 料	⑨	サーバー年間利用料		ポートフォリオシステム	産業界のニーズ'			1,202	
	○	防犯カメラシステム一式(リースアップ)		本館、研究棟、体育館	カメラ16台、モニター、レコーダー他			573	
	○	教員用ノートパソコン		@18.4 × 19台	研究室			350	
	○	職員用ノートパソコン		25台、サーバー1台	事務局			706	
	○	コピー機		事務局・2号館	4台			393	
	○	スクールバス駐車場		研究棟隣地	1,493㎡			2,400	
	○	借植木						385	
	○	公用車(軽自動車)リース料						361	
							計	(	6,370
奨 学 費 (給 付)	○	眞鍋記念奨学金		2名	@365(2年生後期授業料)			730	
	○	児童福祉奨学金		1年後期、2年(前後期)	@100×3名+ @100×1名×2			500	
	○	卒業生・在学生家族		9名	@50(入学金一部減免)			450	
	○	特待生制度入試(成績、修学支援)		5名	(1年生前期授業料)			1,825	
						計	(	3,505	)
広 報 宣 伝 費	○	入学案内書、大学広告他						24,744	
							計	(	24,744
清 掃 費	○	日常清掃、定期清掃			全 館			12,811	
							計	(	12,811
				43					

2013(平成25)年度 事業計画 予 算

新規等の主な経費		内 容	個 数	場 所	(単位:千円)	
					金 額	
雑 費	①	ML特別教室、会議室改修工事時産廃処理費		206教室		431
	⑤	1号館出入口庇改修工事時 産廃処分工事		1号館		324
	⑥	照明器具取替(LED蛍光灯) 既存照明器具処分費		小児栄養実習室		23
	⑧	屋外学生用掲示板撤去費		1号館		199
	○	法人名変更に伴う各種サイン表示変更費		1号館		470
	○	防災用品 (乾パン、石油ストーブ他)		防災倉庫		1,000
					計 (	977)
建物一部撤去費	①	ML特別教室、会議室改修工事時既存撤去費		206教室		1,151
	④	地下改修工事既存建物部分撤去費		2号館地下		1,573
	⑤	1号館出入口庇改修既存部分撤去費		1号館出入口		934
					計 (	2,724)
				単位:千円		
※ 2013年度主な事業計画				計	87,522	
①	ML特別教室、会議室改修工事		ML教室特別	総 額	19,423	
②	MIシステム機器及び映像設備	25台他	ML教室特別	総 額	19,890	
③	会議用机、椅子	椅子40、机20	新会議室	総 額	4,494	
④	介護、入浴実習室設置費	専攻科	2号館	総 額	22,183	
⑤	1号館出入口 庇改修工事		1号館	総 額	4,051	
⑥	照明器具取替(LED蛍光灯)		小児栄養実習室	総 額	1,229	
⑦	食堂厨房床面防水加工工事		学生食堂	総 額	1,550	
⑧	学友会他 掲示板整備経費		1号館他	総 額	786	
⑨	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業			総 額	10,073	
⑩	5号館 土地・建物売買契約に係る仲介手数料		5号館	総 額	3,843	
⑪	外灯(ソーラー街路灯	10基	正門、4号館	1年間検討していく		

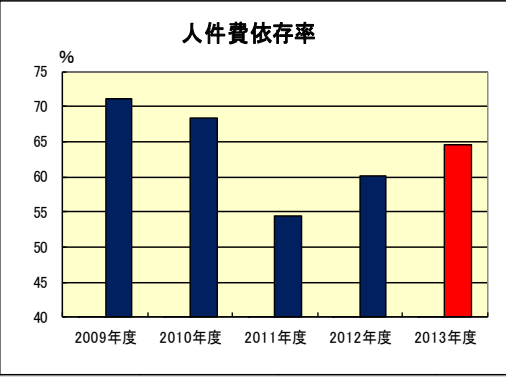
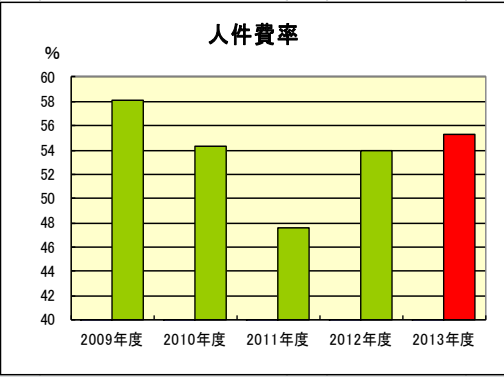
9. 財政の概要						
資 金 収 支 計 算 書		(2009年度 ～ 2013年度)			学校法人和泉短期大学	
						(単位: 千円)
			専攻科に改組		予 算	予 算
	科 目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金 収 入	619,950	665,090	703,100	644,150	628,400
	手 数 料 収 入	11,381	11,235	10,921	8,590	8,590
	寄 付 金 収 入	368	1,218	2,918	200	500
	補 助 金 収 入	64,248	75,682	60,467	45,105	50,178
	資 産 運 用 収 入	31,226	23,281	23,367	17,400	23,539
	資 産 売 却 収 入	0	0	0	0	120,000
	事 業 収 入	4,764	3,663	2,270	1,950	2,336
	雑 収 入	26,455	57,627	1,361	510	19,206
	借 入 金 等 収 入	0	0	0	0	0
	前 受 金 収 入	256,465	252,015	247,010	211,475	211,675
	そ の 他 の 収 入	50,159	45,413	68,122	8,947	296,059
	資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 230,165	△ 313,332	△ 252,624	△ 211,475	△ 231,081
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,915,378	1,985,845	1,720,743	1,827,566	1,810,000
	合 計	2,750,229	2,807,737	2,587,655	2,554,418	2,939,402
支出の部	人 件 費 支 出	445,908	459,945	384,867	390,822	411,290
	教 育 研 究 経 費 支 出	110,161	123,181	115,902	130,277	137,287
	管 理 経 費 支 出	97,017	101,640	110,159	118,090	111,562
	借 入 金 等 利 息 支 出	0	0	0	0	0
	借 入 金 等 返 済 支 出	0	0	0	0	0
	施 設 関 係 支 出	5,360	5,879	34,134	97,190	27,746
	設 備 関 係 支 出	12,259	15,809	9,080	7,671	29,028
	資 産 運 用 支 出	82,210	368,289	103,026	49,535	298,645
	そ の 他 の 支 出	15,525	17,478	16,259	12,162	46,562
	予 備 費 支 出		0	0	30,000	30,000
	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 4,056	△ 5,227	△ 13,338	△ 3,432	△ 3,260
	次 年 度 繰 越 支 払 資 金	1,985,845	1,720,743	1,827,566	1,722,103	1,850,542
	合 計	2,750,229	2,807,737	2,587,655	2,554,418	2,939,402
資 金 収 支 差 額		70,467	△ 265,102	106,823	△ 105,463	40,542
短期大学学生数		487	539名	569名	525	510
専門学校(専攻科)学生数		34	27名	26名	20	20
	前年度対比学生数	△128名	45名増	30名	△50名	△15名
			45			

		消 費 収 支 の 状 況				(2009年度 ～ 2013年度)				学校法人 和泉短期大学	
										(単位: 千円)	
									予 算	予 算	
科 目		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度		2013年度	
		金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率	金 額	構成比率
消費収入の部	帰属学生生徒等納付金(ア)	619,950	81.7%	665,090	79.4%	703,100	87.4%	644,150	89.7%	628,400	85.8%
	手数料	11,381	1.5%	11,235	1.3%	10,921	1.4%	8,590	1.2%	8,590	1.2%
	寄付金(イ)	368	0.0%	1,218	0.1%	3,418	0.4%	200	0.0%	500	0.1%
	補助金(ウ)	64,248	8.5%	75,682	9.0%	60,467	7.5%	45,105	6.3%	50,178	6.8%
	資産運用収入	31,226	4.1%	23,281	2.8%	23,367	2.9%	17,400	2.4%	23,539	3.2%
	事業収入	4,764	0.6%	3,663	0.4%	2,270	0.3%	1,950	0.3%	2,336	0.3%
	雑収入	26,455	3.5%	57,627	6.9%	1,361	0.2%	510	0.1%	19,206	2.6%
	合 計(オ)	758,392	100.0%	837,796	100.0%	804,904	100.0%	717,905	100.0%	732,749	100.0%
	基本金組入額(カ)	△ 2,713	0.4%	△ 302,088	36.1%	△ 62,424	7.8%	△ 30,373	4.2%	△ 30,356	4.1%
	(第1号基本金組入額)	△ 2,610	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	(第2号基本金組入額)	0	0.0%	0	0.0%	△ 40,000	5.0%	△ 30,000	4.2%	△ 30,000	4.1%
	(第3号基本金組入額)	△ 103	0.0%	△ 302,088	36.1%	△ 22,424	2.8%	△ 373	0.1%	△ 356	0.0%
	(第4号基本金組入額)	0		0		0		0		0	
	消費収入(オ)－(カ)(キ)	755,679	99.6%	535,708	63.9%	742,480	92.2%	687,532	95.8%	702,393	95.9%
消費支出の部	人件費(ク)	441,065	58.2%	455,330	54.3%	382,590	47.5%	386,985	53.9%	405,055	55.3%
	教育研究経費支出(ク)	181,538	23.9%	187,174	22.3%	181,298	22.5%	191,267	26.6%	195,259	26.6%
	(減価償却額)	71,376	9.4%	63,993	7.6%	65,397	8.1%	60,990	8.5%	57,972	7.9%
	管理経費支出(コ)	104,669	13.8%	108,698	13.0%	115,564	14.4%	124,383	17.3%	117,964	16.1%
	(減価償却額)	6,876	0.9%	6,819	0.8%	6,685	0.8%	6,293	0.9%	6,402	0.9%
	借入金等利息(サ)	0		0		0		0		0	
	資産処分差額(シ)	5,526	0.7%	1,655	0.2%	493	0.1%	6,608	0.9%	117,211	16.0%
	予備費(ス)							30,000		30,000	
消費支出合計(セ)		732,798	96.6%	752,857	89.9%	679,945	84.5%	739,243	103.0%	865,489	118.1%
当年度消費収入超過額(キ)－(セ)		22,881		△ 217,149		62,535		△ 51,711		△ 163,096	
基本金取崩額(ソ)		7,868		14,900		13,666		147,597		503,673	
前年度繰越消費収入超過額		1,986,892		2,017,641		1,815,392		1,891,593		1,987,479	
翌年度繰越消費収入超過額		2,017,641		1,815,392		1,891,593		1,987,479		2,328,056	
帰属収支差額(オ)－(セ)		25,594	3.4%	84,939	10.1%	124,959	15.5%	△ 21,338	-3.0%	△ 132,740	-18.1%
{(オ)－(イ)－(エ)}－{(セ)－(シ)－(ス)}		30,752		85,376		122,034		15,070		13,971	
資金剰余額(オ)－(セ)＋減価償却費		103,846		155,751		197,041		45,945		-68,366	
					※ 構成比率	=	帰属収入に占める割合				
					46						

	財 務 比 率 表 （ 2009年度 ～ 2013年度 ）								
学校法人和泉短期大学						予 算	予 算	(単位:%)	
区 分		算 式 (×100)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	23年度短大法人 30 法 人	
分類	比 率		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度		
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	消費収支差額 総 資 金	24.5	21.8	22.4			-29.9	
	基本金比率	基本金 基本金要組入額	100.0	100.0	100.0			98	
	固定比率	固定資産 自己資産	80.2	83.3	82.9			93.2	
	固定長期適合率	固定資産 自己資金+固定負債	78.1	81.2	80.8			86.8	
	流動比率	流動資産 流動負債	738.4	663.5	689.3			318.5	
	前受金保有率	現金・預金 前受金	774.3	682.8	739.9			449.7	
	総負債比率	総負債 総資産	5.9	5.7	5.6			12.1	
	負債率	総負債-前受金 総 資 産	2.7	2.7	2.6			13.8	
	運用資産余裕率	運用資産-外部負債 消費支出	6.4	6.4	7.4			1.3	
区 分		算 式 (×100)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	23年度短大法人 30 法 人	
分類	比 率		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度		
消 費 収 支 計 算 書	人 件 費 率	人 件 費 帰 属 収 入	58.2	54.3	47.5	53.9	55.3	57.9	
	人 件 費 依 存 率	人 件 費 学 生 生 徒 等 納 付 金	71.1	68.5	54.4	60.1	64.5	94.5	
	教 育 研 究 経 費 比 率	教 育 研 究 経 費 帰 属 収 入	23.9	22.3	22.5	26.6	26.6	25.8	
	管 理 経 費 比 率	管 理 経 費 帰 属 収 入	13.8	13.0	14.4	17.3	16.1	9.8	
	消 費 支 出 比 率	消 費 支 出 帰 属 収 入	96.6	89.9	84.5	103.0	118.1	97.2	
	消 費 収 支 比 率	消 費 支 出 消 費 収 入	97.0	140.5	91.6	107.5	123.2	106.1	
	帰 属 収 支 差 額 比 率	帰 属 収 入 - 消 費 支 出 帰 属 収 入	3.4	10.1	15.5	-3.0	-18.1	2.7	
	経 常 経 費 依 存 率	消 費 支 出 学 生 生 徒 等 納 付 金	118.2	113.2	96.7	114.8	137.7	158.7	
	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	学 生 生 徒 等 納 付 金 帰 属 収 入	81.7	79.4	87.4	89.7	85.8	61.3	
	寄 付 金 比 率	寄 付 金 帰 属 収 入	0.0	0.1	0.4	0.0	0.1	0.9	
	補 助 金 比 率	補 助 金 帰 属 収 入	8.5	9.0	7.5	6.3	6.8	27.5	
	基 本 金 組 入 率	基 本 金 組 入 額 帰 属 収 入	0.4	36.1	7.8	4.2	4.1	8.3	
	減 価 償 却 費 比 率	減 価 償 却 額 消 費 支 出	10.7	9.4	10.6	9.1	7.4	10.8	
理事会・評議員会 2013年度予算		2013年 3月22日(金)	参 考「今日の私学財政」平成24年度版				2011年度短大法人 120法人 学生数 500人～1000人 30法人		

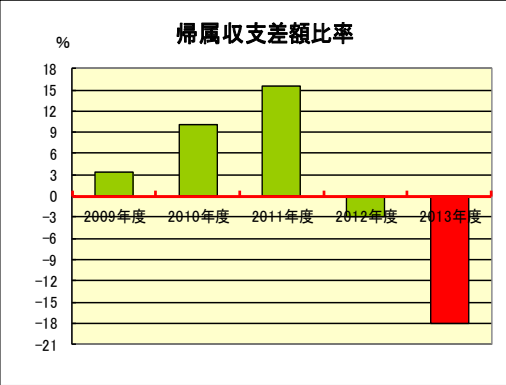
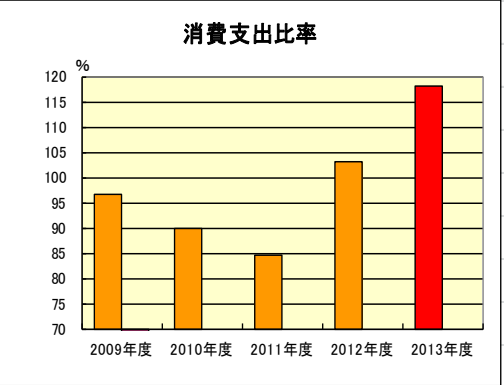
消費収支計算書の財務比率推移（グラフ）と説明

和泉短期大学



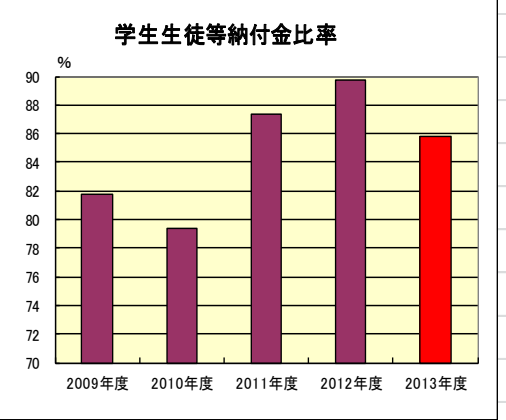
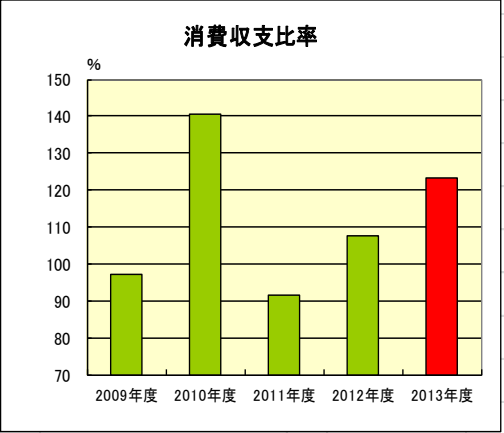
帰属収入に対する人件費の割合です。**50%以内が目安**です。
人件費は、消費支出の中でも最大の比重を占める支出です。
人件費が膨らんでいくと収支状況の悪化を招きやすい。
学生数の減少は比率の上昇を意味するため、人件費削減対策は、最重要課題です。

学生生徒等納付金収入に対する人件費の割合。
100%以内が目安です。
人件費は、学生生徒等納付金の範囲内が理想です。
本学園の数値が低いのは、帰属収入に占める学納金の構成比率が高いためです。



帰属収入に対する消費支出の割合。
学生数の減少が顕著に現れる比率。**目標値は80%**です。
90%以上になると経営が困難になると言われています。
2013年度予算は、5号館売却による処分差額により、118%になります。
100%以内に抑えないと施設設備の整備が出来なくなります。

帰属収入から消費支出を引いた差額の帰属収入に対する割合。
学園の純利益を表わす、重要な財務比率です。
比率がプラスになると自己資金が充実されていることを意味します。
プラス分から将来の施設設備の取替更新を行います。
マイナスが何年も継続して行くと経営は窮迫し、資金が枯渇します。
10%以上を経営安定の指標にしています。
2012、2013年度と2年間マイナスになる厳しい数値になっています。



消費収入に対する消費支出の割合。
100%以下が目安です。2010年度は、第3号基本金組み入れを行ったため140%を超えました。
2013年度は5号館売却による会計処理の為、再び100%を超えています。
支出超過分が、減価償却額の範囲内であれば、資金繰りで資金ショートを起こすことはありません。

帰属収入に占める学生生徒等納付金収入の割合。
収入のほとんどを学納金に依存しているため
学納金に依存する収入構造の改革が急務です。